

PENTAX®

Z-SP QUARTZ
DATE

使用説明書



パノラマ

途中切替え

このたびはペンタックスカメラをお買い上げいただき誠にありがとうございます。Z-5Pは、撮影途中でも自由にパノラマ／標準撮影の切り替えができます。また、パワーズームやプログラム自動露出からのワンタッチでのシャッター優先、絞り優先への切り替えとプログラムへの復帰などにより、自由に撮影者の意図を割り込ませることができます。

さらに、専用のパワーズームレンズとの組み合わせによるオート露光間ズームや焦点距離の設定など高精度なインテリジェントパワーズーム機能も備えたオートフォーカス一眼レフカメラです。

その他、以下のような特徴を備えています。

- ・動体予測
- ・9回までの多重露出
- ・8分割測光を含め、3つの測光モードを自由に選択可能。

ご使用前に使用説明書の関係部分をよくお読みのうえ正しくお使いください。

各部の名称は表紙と裏表紙の内側にありますので、開いて各ページを読みながらご覧いただくこともできます。

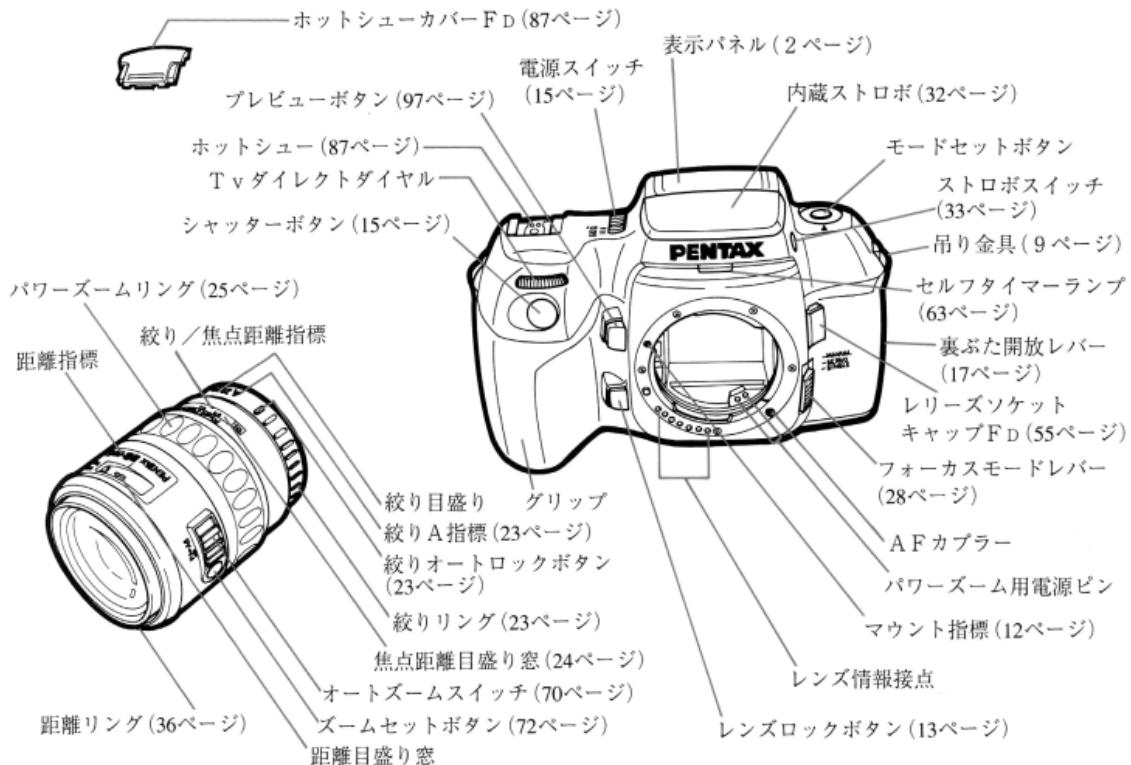
記号について

操作の方向	←
自動的に動きます	↔↔↔
注目してください	○
点滅します	★
正しい	○
間違い	✗



各部の名称を開いて見ながらお使いください。

各部の名称①



こんな写真を撮るには？



ピント関係

画面の中央にない物にピントを合わせたい	31
ピントの合う範囲を変えて写真を撮りたい	52
カメラを覗いて、ピントの合う範囲を確認したい	97



露出[明るさ]関係

カメラ任せでなく明るさを自由に変えて写真を撮りたい	48,56
逆光の人物の顔を明るく写したい	56,80
明るさを変えた写真を3枚連続して撮りたい	64



人物撮影関係

逆光の人物の顔を明るく写したい	56,80
自分自身も写真に写りたい	62
夜景をバックに人物を撮影したい	81



風景撮影関係

夜景を撮りたい	54
夜景をバックに人物を撮影したい	81



その他

写真に日付を入れたい[消したい]	16
動きのあるものを連続的に撮影したい	58
フィルムの同じ枚数の部分に重ねて撮影したい	59
横長のダイナミックな写真[パノラマ]を撮りたい	67

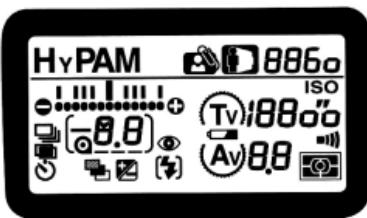


ズーミング関係

写したい物の大きさを大きくしたり小さくしたりしたい	24
自分が決めた焦点距離で常に撮影をしたい	71
シャッターが開いている間にズーミングをして	
特殊な効果を出したい	73

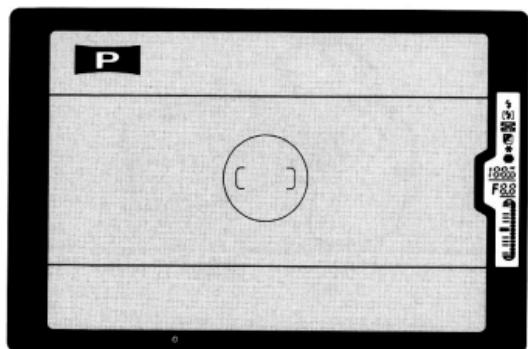
表示パネルの表示ガイド	2
ファインダー内の表示ガイド	3
使い方は簡単です	4
マウントについて	6
Z-5Pと各種レンズを組み合わせたときの機能	7
説明書の構成について	8
カメラの準備と基本操作	9~21
ストラップを取り付けます	9
電池を入れます	10
レンズを取り付けます	12
ファインダーの視度を調節します	14
シャッターボタンの操作	15
電源スイッチの操作	15
データパックを使います	16
フィルムを入れます	17
フィルムの巻き戻しについて	20
基本的な使い方(撮影)	22~34
最も簡単な露出モードを使います	22
ズームレンズの使い方	24
カメラの構え方	27
オートフォーカスで使います	28
オートフォーカスでピントを合わせます	29
・フォーカスロック撮影について	31
撮影します	32
内蔵ストロボの基本的な使い方	32
応用的な使い方	35~98
手動によるピント合わせ	35
オートフォーカスの苦手な被写体	38
測光モードの切り替えについて	40
・8分割測光について	41
・スポット測光について	42
・中央重点測光について	42
・メモリーロックについて	43
各露出モードを選びます	44
・ハイパープログラム自動露出の使い方	46
・ハイパーマニュアル露出の使い方	48
・絞り優先自動露出の使い方	52
・バルブの使い方	54
露出補正について	56
・露出補正について	56
・露出補正について	57
・連続撮影の使い方	58
・多重露出撮影の使い方	59
・セルフタイマー撮影の使い方	62
オートブレケッティング撮影の使い方	64
パノラマ撮影	67
パワーズームの拡張機能	70
・ズームクリップモードの使い方	71
・露光間ズームモードの使い方	73
内蔵ストロボを使います	76
・赤目軽減機能について	79
・日中シンクロについて	80
・低速シンクロについて	81
・AFスポットビームについて	82
電子音を消すには	83
クォーツデータのデータ修正	84
フィルム感度(I S O)のマニュアル設定	86
外付けストロボの使い方	87
・光量比制御シンクロ撮影	90
専用アクセサリー(別売)について	91
ソフトケースF D P	94
絞りとシャッター速度の効果	95
被写界深度	97
・プレビューボタンについて	97
赤外線指標について	98
その他について	99~111
電池について	99
取り扱い上の注意	100
こんなときは?	102
主な仕様	104
お問い合わせは次の各サービス窓口へ	106
各部の名称	108
アフターサービスについて	109
109	109

表示パネルの表示ガイド



- Hyp** : ハイパープログラム自動露出表示(46ページ)
P : プログラム自動露出表示(23ページ)
A(A) : 絞り優先自動露出表示(52ページ)
 : バーグラフ(48、56、64ページ)
ISO : フィルム感度表示(I S O)(86ページ)
 : T vダイレクトダイヤル表示
HvM : ハイパーマニュアル露出表示(48ページ)
 : ズームクリップモード表示(71ページ)
 : 露光間ズームモード表示(73ページ)

- : シャッター速度表示
 : 絞り表示
 : 測光モード表示(40ページ)
 : セルフタイマー表示(62ページ)
 : 赤目軽減表示(79ページ)
 : 内蔵ストロボ情報表示(32ページ)
 : 露出補正表示(56ページ)
 : A vダイレクトダイヤル表示
 : 電子音有効表示(83ページ)
 : 電池消耗表示(11ページ)
 : フィルム枚数、多重露出回数表示(19、59°-シ")
 : 露出補正值表示(56°-シ")
 : ブラケットティング補正值表示(65°-シ")
 : フィルム状態表示(19ページ)
 : 1コマ撮影表示(57ページ)
 : 連続撮影表示(58ページ)
 : ブラケットティング表示(64ページ)
 : 多重露出表示(59ページ)



- 〔〕 : オートフォーカスフレーム (AF フレーム) (29ページ)
- 〔〕 : 内蔵ストロボ情報表示 (32ページ)
- 〔〕 : 外付けストロボ情報表示 (87ページ)
- 8000 : T v 表示 (シャッター速度情報)
- : 露出補正表示 (56ページ)
- * : メモリーロック表示 (43ページ)
- : 合焦表示 (ピント情報) (29ページ)
- F32 : A v 表示 (絞り情報)
- : パノラマシグナル (67ページ)
- : バーグラフ (48、56、64ページ)
- : 激光モード表示 (40ページ)

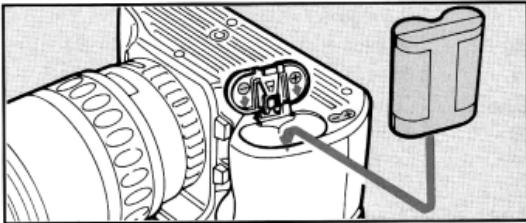
※ ファインダー内の横線は、パノラマ撮影をする際のパノラマ視野枠になります。

※ オートフォーカスフレームの回りの円は、スポット測光の範囲です。

※ 標準撮影のときは、パノラマシグナル ■ が消えていることを確認してください。

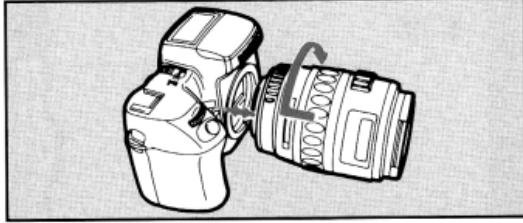
4 使い方は簡単です！(とにかく撮影してみたい人のために)

1) 電池を入れてください



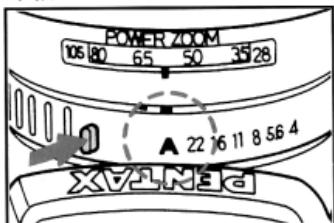
電池ぶたを開いて、リチウム電池 [CR 5] 1本をカメラの表示に合わせて入れます。 (10ページ)

2) レンズを取り付けてください



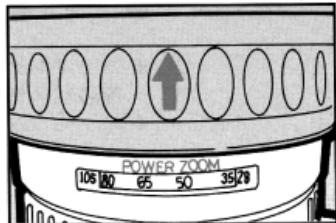
レンズとカメラのマウント指標を合わせてハメ込み、右に止まるまで回してロックします。 (12ページ)

3) 絞りをA位置にしてください



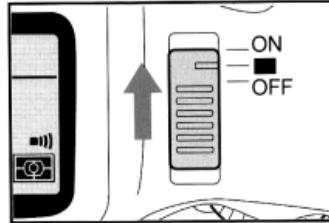
レンズの絞りオートロックボタンを押しながらリングを回し、絞りをA位置に合わせます。 (23ページ)

4) パワーズームしてください



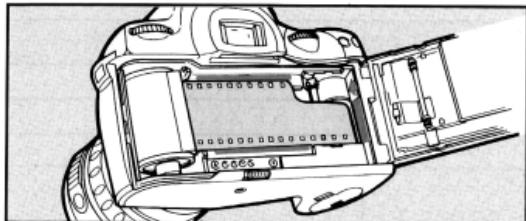
レンズの[POWER ZOOM]が見える状態にし、オートズームスイッチを[P]にします (25ページ)。パワーズームはF Aズームでのみ可能です。

5) グリーンポジションにします



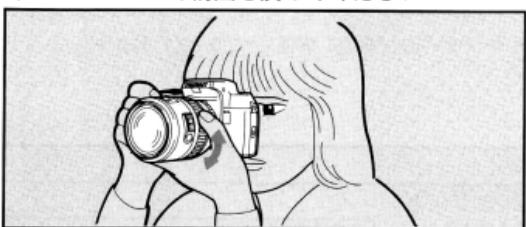
電源スイッチを■(グリーンポジション)に合わせます。 (15ページ)

6) フィルムを入れてください



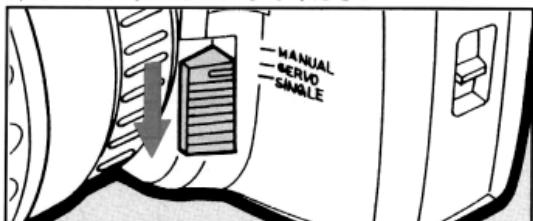
カメラの裏ぶたを開けてフィルムを入れ、先端マークを合わせて裏ぶたを閉めます。自動的に1コマ目まで巻き上がります。(17ページ)

8) パワーズームで構図を決めてください



ファインダーを覗きながらズームリングを回して、写したいものを好みの大きさにしてください。(24ページ)

7) オートフォーカスにしてください



フォーカスマードレバーを[SINGLE]に合わせます。(28ページ)

9) ピントを合わせて撮影してください



写したいもの(被写体)をA Fフレーム [] に合わせて、シャッターボタンを静かに押して撮影します。(29ページ)

6

マウントについて

カメラ・レンズのマウントについて

マウントの分類名称	レンズ分類名称	カメラ代表機種名
① KAF2マウント	ペンタックスFAレンズ	Z-1P、Z-20P、Z-50P、Z-5P
② KAFマウント	ペンタックスFレンズ	SFXN、SF7
③ KAマウント	ペンタックスAレンズ	スーパーA、P30T
④ Kマウント	ペンタックスMレンズ およびペンタックスレンズ	LX、K1000
⑤ スクリューマウント	SMCタクマーレンズなど	ESII、SP

①～④のレンズはKマウント(バヨネット式)です。

①～②はオートフォーカス対応レンズです。

③～⑤はマニュアルフォーカスレンズです。

⑤は旧タイプのねじ込み式レンズですから、マウントアダプターK(別売)を使って取り付けます。

①～③は絞りリングにA(オート)位置が付いています。

ペンタックスFAレンズはKマウントに以下の機能が追加されたもので、従来のKマウントカメラにも使えるようになっています。

- ・パワーズーム用電源ピン
- ・AFカプラー
- ・レンズ情報接点

Kマウント互換イメージ図

KAF2マウントレンズ	KAFマウントレンズ	KAマウントレンズ	Kマウントレンズ
<ul style="list-style-type: none"> •パワーズーム用 電源ピン •AFカプラー •レンズ情報接点 	<ul style="list-style-type: none"> •AFカプラー •レンズ情報接点 	<ul style="list-style-type: none"> •レンズ情報接点 	

機能	レンズ 〔マウント名〕	F Aレンズ 〔KAF2〕	Fレンズ 〔KAF〕	Aレンズ 〔KA〕	Mレンズ 〔K〕	Sレンズ 〔P〕
オートフォーカス(レンズ単体使用) (AFアダプター1.7×使用)	○	○	×	×	×	×
マニュアルフォーカス(FI表示の利用)注2 (マット面の利用)	— ○ 注3 ○	— ○ 注3 ○	○ 注1 ○ 注3 ○	○ 注1 ○ 注3 ○	○ 注1 ○ 注3 ○	×
パワーズーム	○ 注4	×	×	×	×	×
ズームクリップ	○ 注4	×	×	×	×	×
露光間ズーム	○ 注4	×	×	×	×	×
ハイバープログラム自動露出	○	○ 注5	○	○	×	×
プログラム自動露出	○	○ 注5	○	○	×	×
絞り優先自動露出	○	○	○	○	○	○
ハイバーマニュアル露出	○	○	○	○	○ 注6	○ 注6
プログラムTTLオートストロボ撮影	○	○ 注5	○	○	×	×
TTLオートストロボ撮影	○	○	○	○	○	○
分割測光	○	○	○	○	×	×
絞りA位置以外の絞り目安表示	○	○	×	×	×	×

注1：レンズの開放F値がF2.8より明るいレンズのみ。(AFアダプターの説明書をご覧ください。)

注2：ファインダー内の合焦表示 に従って行なう手動のピント合わせ。(FI=フォーカスインジケーター。)

注3：レンズの開放F値がF5.6より明るいレンズのみ。

注4：FAズームレンズのみ。

注5：Fレンズのソフト85mm F2.8を除く。

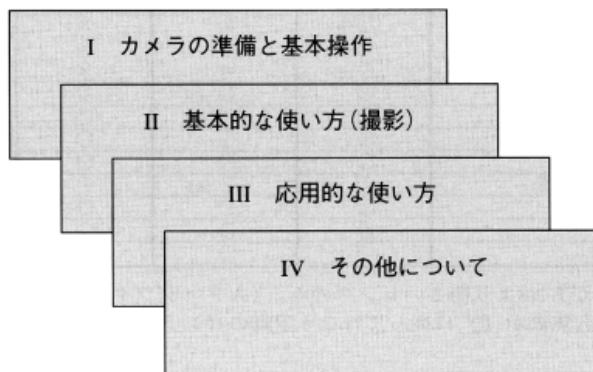
注6：絞りにA位置がありませんので、Avダイレクトダイヤルでの絞りセットでは使用できません。

注7：Mレンズ以前(情報接点のないレンズ)は、8分割測光にならず中央重点測光かスポット測光になります。電源スイッチがグリーンポジション では、中央重点測光だけになります。

8

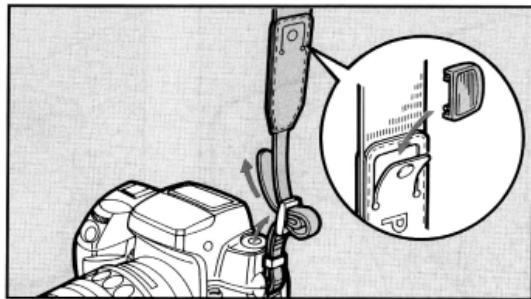
説明書の構成について

説明書を効果的にご利用いただくために、この説明書は次のように分けられています。



- とにかくZ-5Pで撮影してみたい方は、「カメラの準備と基本操作」と「基本的な使い方(撮影)」をお読みください。最小限の操作を知っていただけで簡単な撮影がお楽しみいただけます。
- 「電池について」(99ページ)「取り扱い上の注意」(100ページ)「アフターサービスについて」(109ページ)は必ずお読みください。

I カメラの準備と 基本操作

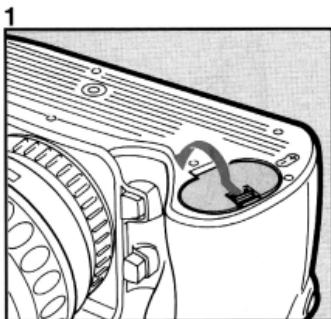


図のように、ストラップを取り付けてください。

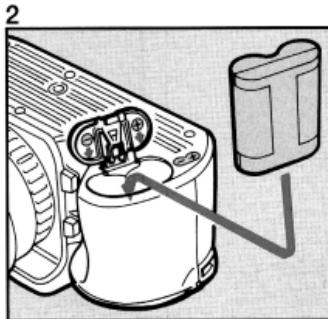
- * ストラップの先端は、留め具の内側になるよう通すと、しっかりと取り付けられます。
- * ストラップのポケットは、ファインダークリップ、レリーズソケットクリップ、ホットシューカバーなどの小物入れとしてご利用ください。

10

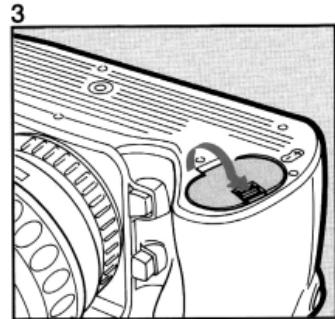
(2) 電池を入れます

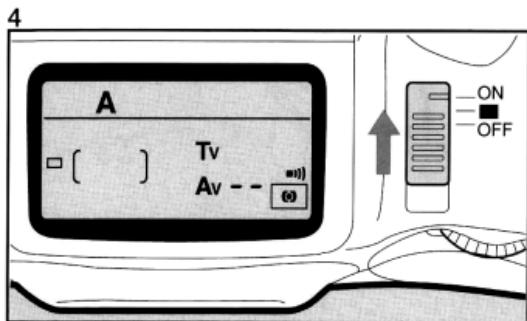


1. 図のように、電池ぶたの開放レバーを矢印の方向へ引いて、電池ぶたを開きます。
2. 電池の金属接点側を先に、カメラの+表示に合わせて電池を入れます。
3. 電池ぶたを押さえたまま、電池ぶた開放レバーを元に戻して電池ぶたを閉じてください。



- * Z-5Pは電池で動きますから、操作をする前には、必ず決められたリチウム電池[2CR5]同等品を1個入れます。Z-5Pには、サンプルの電池が添付されていますので、この電池をお使いください。

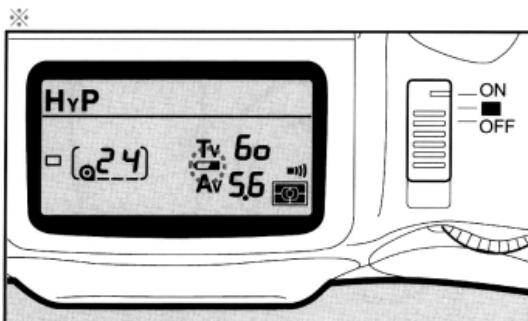




4. 電源スイッチをグリーンポジション **■** または **ON** にし、図のように表示パネルに表示が出来ることを確認してください。

* レンズが取り付けられているときは、別の表示が出ることがあります。

* 99ページの「電池について」もお読みください。



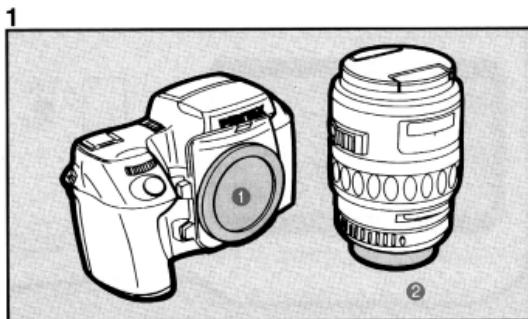
※電池が消耗した場合

電池が消耗すると、図のように表示パネルに電池警告 **■** が点灯します。お早めに電池を交換してください。

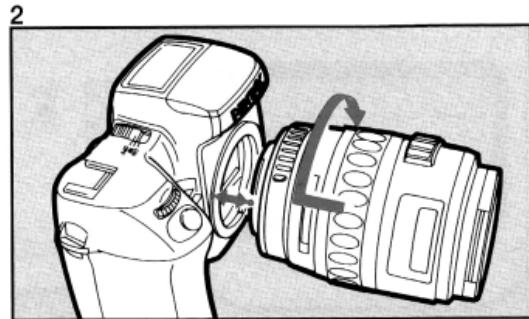
* 表示パネルの電池警告 **■** が点滅になると、シャッターが切れなくなり、ファインダー内に表示中のLCD表示は消灯します。

* 電池を入れ直すと、フィルムカウンターの値およびISO感度の設定を除いて、Z-5Pの諸設定は工場出荷時の初期設定に戻ります。

(3) レンズを取り付けます



1. 図のように、①のボディカバーと②のレンズ後カバーを外します。

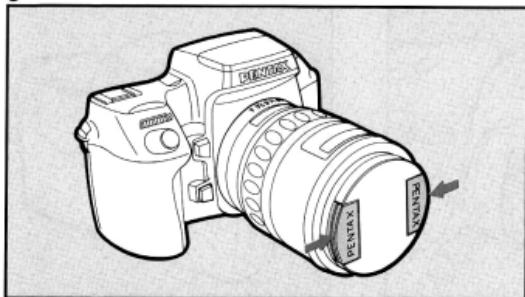


2. ボディとレンズの赤点指標を合わせて、レンズをボディのマウントにはめ込み、レンズを右に回すと「カチッ」と音がしてロックされます。

* ボディカバーは工場出荷時のキズやホコリ防止用のものです。保管用には、別売りアクセサリーとして「ボディマウントキャップK」が用意されています。

* FAズームレンズの着脱は、不用意なズーム作動を防ぐため、電源スイッチを **OFF** にした状態で行ってください。

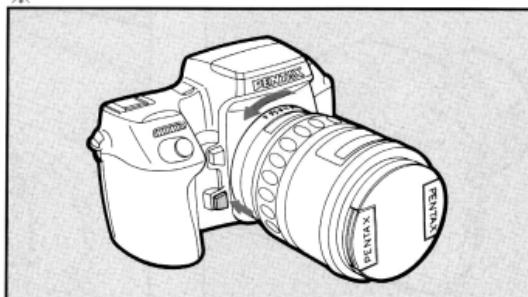
3



3. レンズの前キャップは、図のように矢印部分を内側に押すと外れます。

- * 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。
- * ボディやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

※



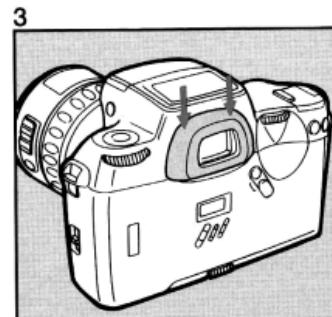
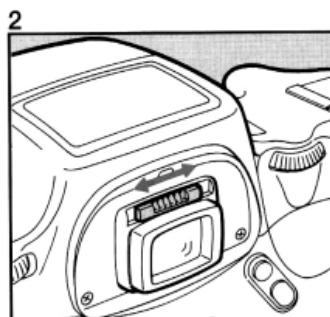
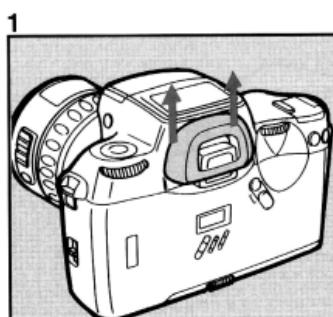
※レンズを外すには

レンズを外すときは、レンズロックボタンを押したまま、レンズを左へ回すと外せます。

- * 外したレンズは、接点やカプラーをキズ付けないようにマウント面を上にして置いてください。

14

(4) ファインダーの視度を調節します



1. アイカップFDを取り外します。
2. カメラを明るい方へ向けて、図のように視度調整レバーを左右に動かし、ファインダー内中央のオートフォーカスフレーム〔〕の線が最もはっきり見える位置に調節します。
3. 調節が終わったら、アイカップFDを取り付けください。

* 取り付けるときは、アイカップFDを上から差し込むようにしてアクセサリー取り付け溝にハメ込んでください。

* 視度の調節範囲は、+1.5D～-2.5D（ディオプトリー）です。

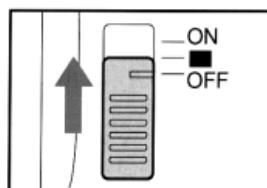
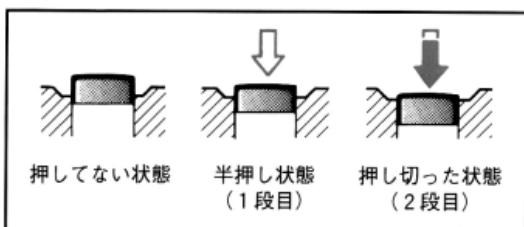
Z-5Pのシャッターボタンは2段階になっています。

シャッターボタンを半押し(1段目まで押す)すると、露出計やオートフォーカス機構が作動します。さらにシャッターボタンを押し切る(2段目まで押す)と、シャッターが切れ撮影できます。

シャッターボタンは、カメラぶれを防ぐためにも、指の腹でゆっくり押ししてください。

* フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押してみて、どこまで押すと半押しになるのか、感覚をつかんでください。

* 露出計のスイッチは、シャッターボタンを半押し後、指を離しても約10秒間入ったままになります。なお、シャッターボタンの半押しを続けると、露出計スイッチも継続します。



電源スイッチは3段階になっています。

[ON] =フルスペックポジション

Z-5Pの全ての機能が使用可能です。

[■] =グリーンポジション(簡易撮影モード)

露出モードは絞りがA位置では、プログラム自動露出のみ。絞りがA位置以外では、絞り優先自動露出のみとなります。

その他の使用できる機能については、22ページをご覧ください。

[OFF] =電源OFF

使わないときは、必ずこの位置にしてください。

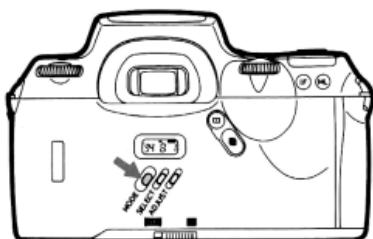
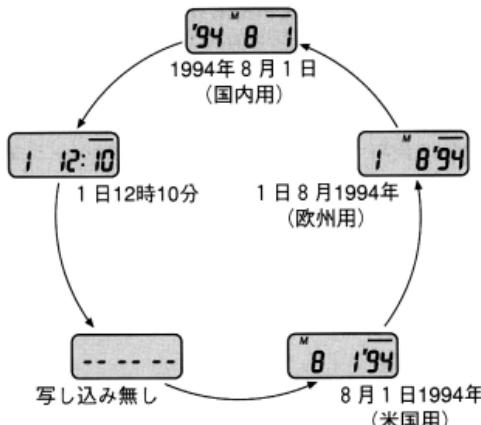
(7) データバックを使います

右図のように、矢印の**[MODE]**ボタンを押して、写し込みたい内容を選びます。表示は図のようになります。

[MODE]ボタンを押すごとに変わり、表示に出ていく日付けまたは時間が写し込まれます。

[M]は「月」の位置を表わしています。

[—]はシャッターを切ると点滅をして、日付けや時間が写し込まれたことを知らせます。



* **[---**]にすると何も写し込まれません。

* 日付けの表示方法は、3種類あります。

* データの写る部分(画面右下)に白や黄色のものがあると、写し込まれたデータが見えにくくなりますので、構図に注意してください。

* 日付けの修正は、84ページをご覧ください。

* パノラマ撮影モードでは、データを写し込み可能な状態にしても、データは写し込まれません。

* データバックの電池は、リチウム電池を使用します。データの写り込みが薄くなったり、データバックの表示窓の表示が薄くなったり、消えた場合には電池を交換してください。なお、電池の交換はお近くの当社サービス窓口にて受け付けております。(有料)

(8) フィルムを入れます

カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習されることをお勧めします。

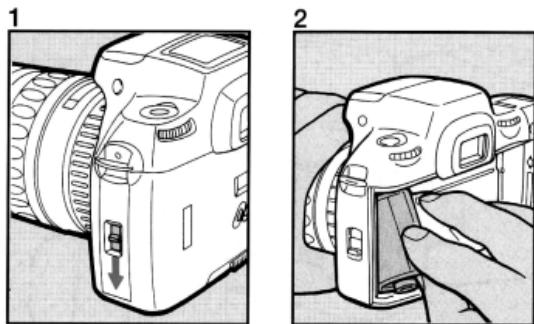
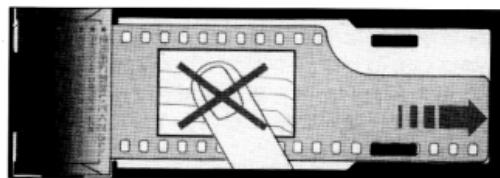
フィルム感度自動セット

このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度が自動的にセットされます。

[ISO25~5000までのフィルムが使えます。]

*ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできるDXフィルムですが、DX以外のフィルムを使用するときは、86ページをご覧になり、ISO感度をマニュアルで設定してお使いください。

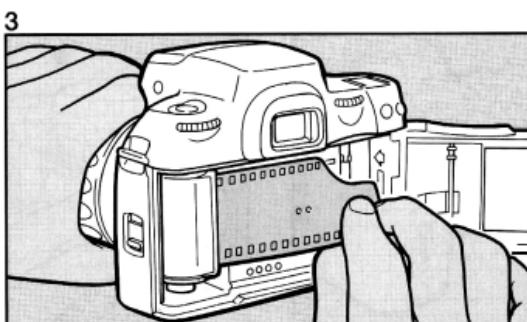
*カメラを購入後、初めてフィルムを入れるときには、裏ぶたを開けて写真のような防傷カバーをシャッター幕に触れないよう注意しながら、取り外してください。



1. 裏ぶた開放レバーを矢印の方向へ下げるとき、裏ぶたが開きます。

2. 図のようにレンズ部分を左手でしっかりと持ち、フィルムの凸部側を下にして上側から先に入れ、次に下側を入れます。

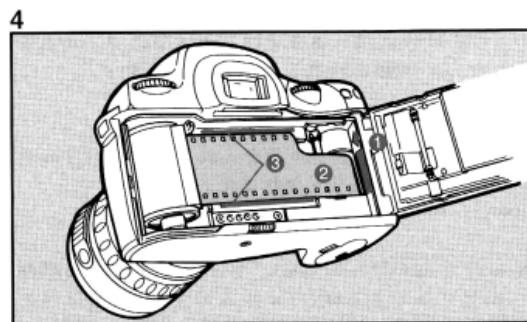
* フィルムを入れるときは、直射日光が当たらないところで行ってください。



3. 左手でレンズを持ったまま、指やフィルム先端がシャッター幕に触れないように気を付けて、フィルムを引き出します。

* フィルムを引き出し過ぎた場合は、フィルムを元に少し戻してたるみを取ります。

* フィルム室内のDX情報ピンは、フィルム感度などを読み取る接点です。キズやゴミ、汚れを付けないように、注意してください。ゴミや汚れがあるときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

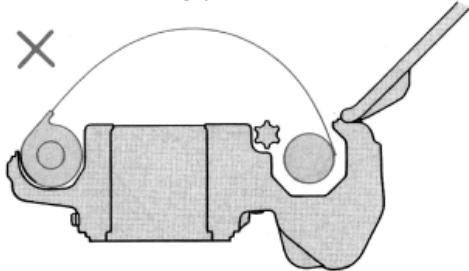


4. 図のように、フィルム先端部を①の赤色先端マークに合わせます。

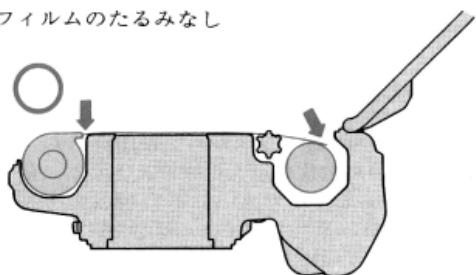
* フィルムの穴(パーフォレーション)を②の歯(スプロケット)に合わせ、③のフィルムガイド(図中、赤線部分)の間にフィルムが入っていることを確認してください。

* シャッター幕は非常に薄い幕でできており、精度の高いものです。手やフィルム先端などが当たりますとシャッター幕を破損させる恐れがありますので、絶対に触れないように注意してください。

フィルムのたるみあり

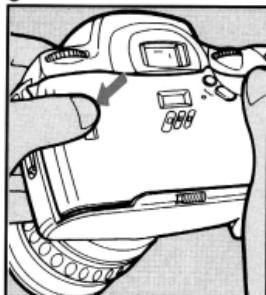


フィルムのたるみなし



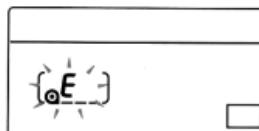
* フィルムの先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直すか、曲がった部分を切り取ります。

5



5. 裏ぶたを開め電源スイッチをグリーンポジション **[■]** か **[ON]** にすると、自動的に巻き上げられます。

* 表示パネルに **[I]** と **[Q—]** が出ていることを確認します。

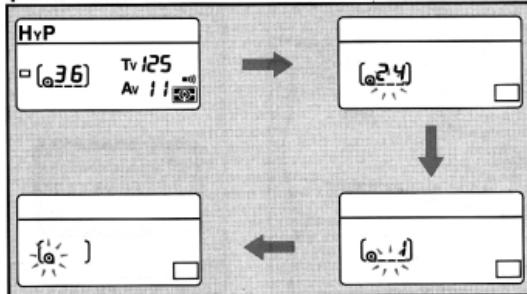


* 表示パネルに **[QE—]** が点滅しているときはフィルムが正しく入っていません。裏ぶたを開けて、フィルムを入れ直してください。

20

(9) フィルムの巻き戻しについて

1



1. フィルムの最後まで撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

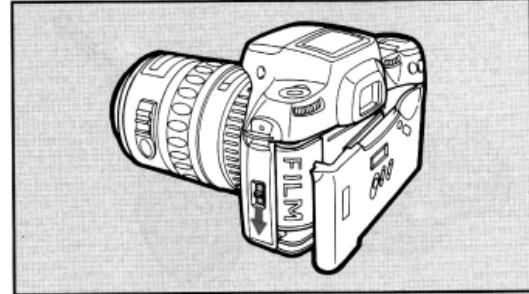
* フィルム終了時自動的に巻き戻しをしないように変更できます。

変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)

* 巻き戻し中は、表示パネルの **[—]** が点滅し、撮影枚数も逆算表示されます。

* 巻き戻しが終了すると、表示パネルの **[Q]** が点滅し、撮影枚数の表示が消えます。この表示を確認してから、裏ぶたを開けてください。

2



2. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

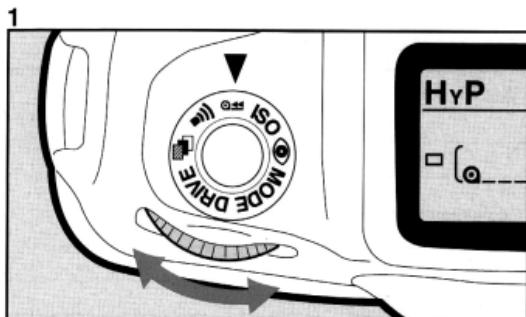
* フィルムは直射日光が当たらないところで取り出してください。

* 巻き戻しは24枚撮りフィルムで約10秒です。

* フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。大事な写真の場合は、規定枚数を撮り終わった時点で途中巻き戻しを行ない、フィルムを取り出してください。(21ページ参照)

* 巻き戻し完了時にフィルムの先端部分を残すように変更できます。

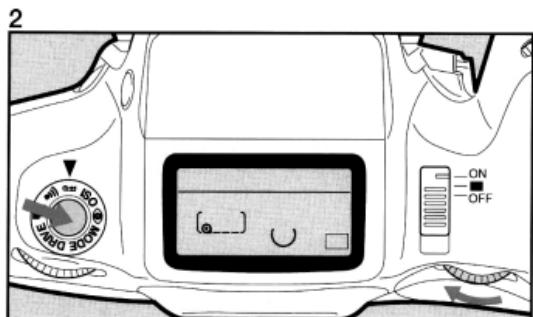
変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)



フィルムの途中巻き戻し

フィルムの規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときには、この機能を使います。

* 電源スイッチが [OFF] になつていては、途中巻き戻しの操作はできません。



- モードダイヤルを [OFF] に合わせます。
- モードセットボタンを押したまま A v ダイレクトダイヤルを左方向に 2 クリック回すと、巻き戻しを開始します。

* 表示パネルの [●] の点滅を確認してからフィルムを取り出してください。

22

II 基本的な 使い方（撮影）

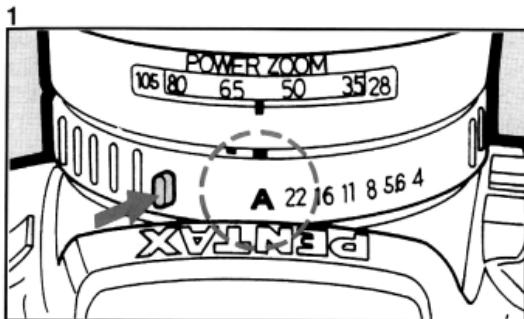
Z-5P カメラには、高度な自動露出機能や様々なドライブモードが付いていますが、ここでは、最も簡単に使える [■]（グリーンポジション）を使用します。写したいものの明るさに応じてカメラが自動的にシャッター速度と絞りを決定しますのでシャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

* グリーンポジションで使える機能は、右表の通りです。これ以外の機能は使えません。

(1) 最も簡単な露出モードを使います

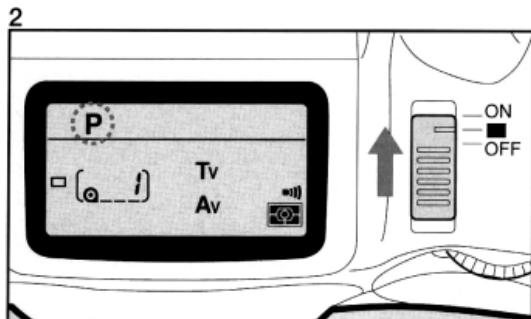
グリーンポジション機能一覧

露出モード	プログラム自動露出（絞り A 位置） 絞り優先自動露出（絞り A 位置以外）
ドライブモード	1コマ撮影
測光モード	分割測光
赤目軽減機能	不可
露出補正	不可
オートブラケティング	不可



1. 図のように、レンズの絞りリングをA位置に合わせます。

* レンズの絞りをA位置に合わせる場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。なお、A位置から外す場合にも、絞りオートロックボタンを押しながらリングを回してください。



2. 電源スイッチをグリーンポジション■に合わせます。

* 表示パネルにPが出て、プログラム自動露出に設定されます。

24

(2) ズームレンズの使い方



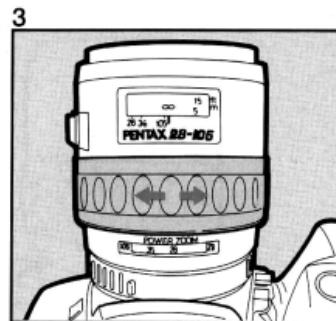
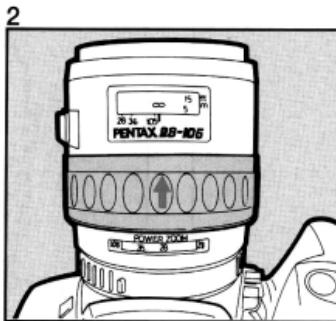
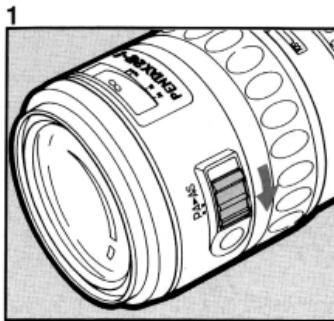
望遠側



広角側

ファインダーを覗きながらズーミング操作をすると、ファインダー像が大きくなったり(テレ)、小さくなったり(ワイド)します。好みの位置に合わせて撮影してください。

- * レンズの焦点距離表示の数字が小さいときは写る範囲が広い広角(ワイド)側、大きいときは大きいものを大きく写す望遠(テレ)側になります。
- * Z-5PにペンタックスFAズームレンズを組み合わせると、パワーズーム(電動ズーム)として使用できます。
- * ペンタックスFズームレンズなどを組み合わせる場合は、マニュアルズームとしてご使用ください。



パワーズームで使用するには

* ペンタックス FAズームレンズのみパワーズームとして使用できます。

1. FAズームレンズにはオートズームスイッチが付いています。このスイッチを [P] (一部のレンズでは [PZ]) に合わせます。

2. 図のように [POWER ZOOM] が見える状態にします。

3. ズームリングを右に回すと望遠(テレ)側へ、左に回すと広角(ワイド)側に動き、手を離すと止まります。

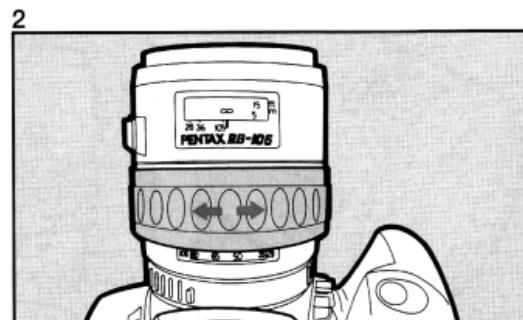
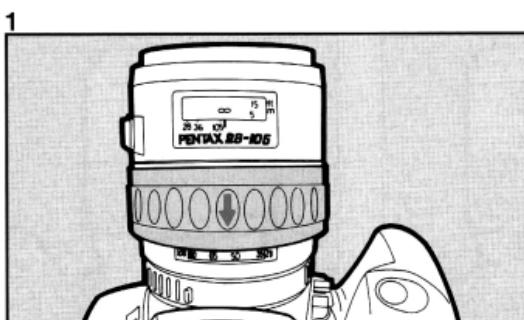
* ズームリングは、回転させる角度によって、

ズーミング速度が3段階に変化します。ズームリングの回転角度を大きくする(当て付ける)と高速でズームが動き、小さくすると低速で動きます。その中間位置では、中速でズーミングできます。

* パワーズームでズーミングをすると自動的にピント合わせが行われます。

ただし、最終的なピント合わせはシャッターボタンの半押しで行ってください。

* FAズームレンズ使用時に電源スイッチを切ると、自動的にレンズの長さが最短になります。



マニュアルズームで使用するには

* FAズームレンズは、ズームリングの切り替えで、マニュアルズームとしても使用できます。

マニュアルズームに切り替えた場合は、FAズームレンズと同様に使用できます。

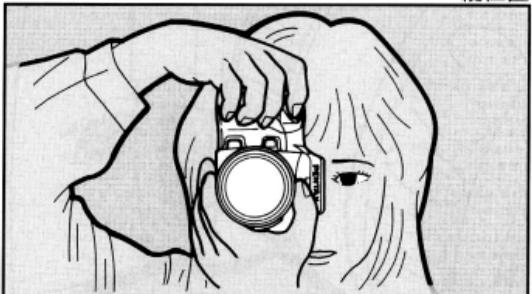
1. 図のように [POWER ZOOM] が隠れるようにします。

2. ズームリングを右に回すと望遠(テレ)側へ、左に回すと広角(ワイド)側に焦点距離が変化します。

横位置



縦位置

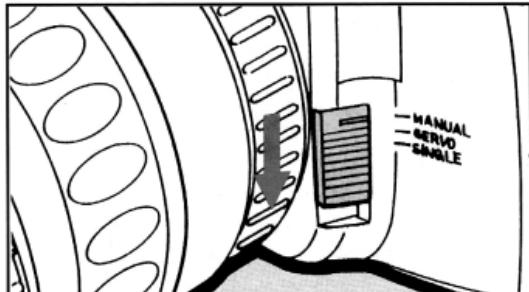


撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

- * シャッター ボタンは指の腹で静かに押します。
(強く押すとカメラぶれの原因になり、シャープな写真が撮れません。)
- * 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させることも良い方法です。
- * 1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用するときは、なるべく三脚を使用してください。また、別売りの「ケーブルスイッチF」の利用をお勧めします。

- * 特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

(4) オートフォーカスで使います



図のように、フォーカスマードレバーには3つのポジションがあります。オートフォーカスで使うには、フォーカスマードレバーを **SINGLE** または **SERVO** に合わせます。

ここでは、フォーカスマードレバーを **SINGLE** に合わせておいてください。

フォーカスマードレバーについて

- **SINGLE**=シングル
シャッターボタンを押すとレンズが自動的に動いて、ピントが合うとシャッターが切れるようになる、最も一般的なオートフォーカスマードです。ピントが合っていないとシャッターは切れません。

• **SERVO**=サーボ

- シャッターボタンを半押ししている間、被写体の距離が変わっても、それに合わせてピントを追い続けるオートフォーカスマードです。ピントが合っていなくてもシャッターボタンを押し込めば、いつでもシャッターが切れます。このモードでは動体予測機能も働きます。

• **MANUAL**=マニュアル

- 手動でピントを合わせるときに使用します。オートフォーカスの苦手な被写体などのときに使用します。(38ページ参照)

1

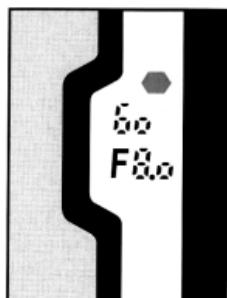
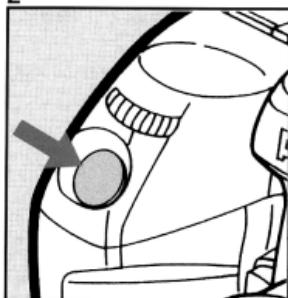


1. 写真のように、A F フレーム [] を写したいものに合わせます。
2. シャッターボタンを半押しすると自動的にピント合わせが行なわれます。

* 構図上、A F フレーム [] がピントを合わせたいものから外れる場合は、「フォーカスロック撮影(31ページ)」をご利用ください。

* ピントが合うと、図のようにファインダー内の [] が緑色に光って、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

2



* オートフォーカス作動中は、レンズの距離リングに手をかけたり回転を妨げたりしないでください。

[] が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。

- ① 撮影距離が近すぎる
- ② オートフォーカスの苦手な被写体の場合(38ページ参照)

30

- * さらにシャッターボタンを押し切ると、撮影できます。
- * SMCペンタックスFソフト85mmF2.8レンズを使用するときは、絞りをF2.8～F4.5で撮影してください。(39ページもご覧ください)

動体予測

フォーカスマードレバーが[SERVO]では、シャッターボタン半押しでピント合わせをしているときに、カメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合には、レンズが連続的に駆動し、常に被写体にピントを合わせ続けます。

A F シングル撮影：

フォーカスマードレバー[SINGLE]の場合

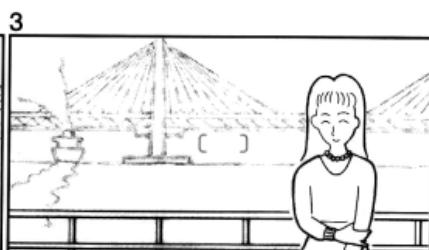
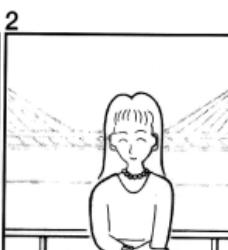
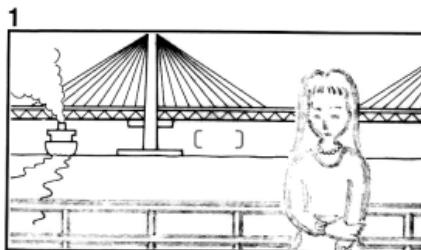
- * ピントが合うまでシャッターは、切れません。
- * シャッターボタンを半押しして、[] が光っている間は、ピントが固定(フォーカスロック)されています。「フォーカスロック撮影」をご覧ください。(31ページ参照)
- * 一度ファインダー内の [] が点灯すると、ピントが固定されますから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離して押し直してください。

* フォーカスマードレバーが[SINGLE]で、ドライブモードが連続撮影[] のときは、ピント合わせは1コマ目のみ行なわれます。2コマ目からは、1コマ目で合わしたピントのままシャッターが連続的に切れます。再びピント合わせを行なうには、シャッターボタンから一旦指を離してください。

A F サーボ撮影：

フォーカスマードレバー[SERVO]の場合

- * ピント合わせに関係なくシャッターを切ることができますが、シャッターボタンを半押ししている間、A F フレームを合わせたものにピントを合わせ続けます。
- * A F サーボ撮影では、動く被写体に対して動体予測を行ないますので、動く被写体に対してピントの合ったシャープな写真を期待できます。
- * フォーカスロック撮影はできません。



フォーカスロック撮影について

ピント合わせは画面中央のAFフレーム〔〕で行なわれます。

構図によって、ピントを合わせたいものが画面中央に来ないときは、フォーカスロック(ピント一時固定)撮影をするとピントの合ったきれいな写真が撮れます。

1. AFフレーム〔〕が外れたままで撮影すると、図のように後ろにピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたいものにAFフレーム〔〕を合わせて、シャッターボタンを半押し状態にして〔〕を点灯させたままにしておきます。(ピントを記憶させる操作です。)
3. シャッターボタンを半押しのまま、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し切って撮影します。

* フォーカスマードレバーを[SINGLE]にしないと、フォーカスロックはできません。

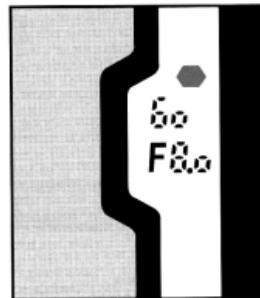
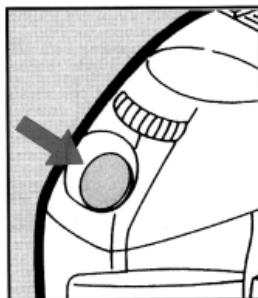
* シャッターボタンから指を離して、ファインダー内の〔〕が消えると、フォーカスロックは解除されます。

* 撮影距離を変えるときは、一度シャッターボタンから指を離して、フォーカスロックをやり直してください。

* フォーカスロック後、シャッターボタンを押し込んで撮影を行ない、シャッターボタンから指を離さずに再びシャッターボタンを半押しに戻すと、フォーカスロック状態のまま何度もシャッターを切ることができます。

32

(6) 撮影します



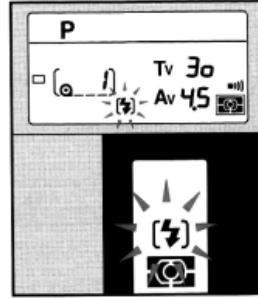
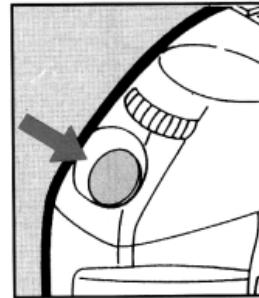
シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッタースピードと絞り値が表示されます。さらにシャッターボタンを静かに押し切って撮影します。

シャッターを切ると、自動的にフィルムを巻き上げ、表示パネルの枚数表示が1コマずつ進みます。

* ストロボお勧め表示が出た場合には、内蔵ストロボを使って撮影しましょう。

* 標準撮影のときは、パノラマシグナル〔〕が消えていることを確認してください。

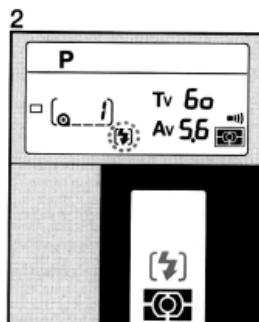
(7) 内蔵ストロボの基本的な使い方



ストロボお勧め表示について

カメラの露出モードをハイパープログラム・プログラム(電源スイッチがグリーンポジション〔〕の場合のみ)・絞り優先自動露出で使用した場合、写したいものが暗い場合や逆光のときに、ファインダー内と表示パネルに〔〕の点滅(ストロボお勧め表示)が出て、ストロボの使用を勧めます。

なお、ハイパープログラムからのシャッター優先自動露出・ハイパーマニュアルでは逆光の場合にのみ、ストロボお勧め表示がでます。



1. 図のように、ストロボスイッチを押して、ストロボを上に飛び出させます。
2. 充電が自動的に始まり、充電が終わると、表示パネルとファインダー内に 、ストロボ同調速度および絞りが表示されます。
3. さらにシャッターボタンを押してストロボ撮影をします。撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押して収納してください。

(ISO 100とき)

使用レンズの開放絞り値	撮影距離範囲
F1.4～2.8	約1～約5m
F3.5	約0.8～約4m
F4.7	約0.7～約3m
F5.6	約0.7～約2.5m

プログラム TTLオートストロボで撮影できる範囲の目安

ストロボ撮影できる距離は、上表のように、ご使用になるレンズの開放絞り値により変化しますのでご注意ください。開放絞り値は、レンズに「1：1.4」のように表示されています。(F1.4の場合)

* 露出モードがハイバープログラム自動露出およびプログラム自動露出(電源スイッチがグリーンポジション の場合のみ)の場合、内蔵ストロボはプログラム TTLオートストロボとして働きます。

- * プログラム TTLオートストロボで撮影できる最短距離は、レンズの開放絞り値がF4.5より暗いレンズを使用しても約0.7mと一定になります。
- * 0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出がオーバーとなる場合がありますのでご注意ください。

ご使用上の注意

レンズが不適切な場合の警告表示

下記のFおよびFAレンズを使用すると、充電が完了してからシャッターボタンを半押しすると表示パネルの やファインダー内の が点滅して警告します。

- ・レンズの焦点距離が28mm未満の場合
- ・レンズの焦点距離が300mm以上の場合(FAズーム100～300mmの300mmを除く)

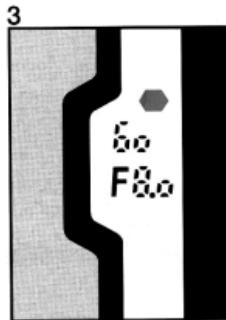
上記の範囲内(28～300mm)でも一部のF・FAレンズでは警告が出ることがあります。

警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出たりしますのでご注意ください。F・FAレンズ以外を使用した場合は警告表示がされませんから特にご注意ください。

- * レンズフードは、ストロボの光路を遮ることがありますので使わないでください。
- * Fズーム24～50mmレンズの場合、焦点距離が28～35mmの間では警告が出ますがご使用いただけます。
- * FAズーム28～105mmレンズの場合、焦点距離が約35～40mmでは警告は出ませんが、ケラレが発生することがありますので1m以上の距離で撮影してください。
- * FA28～70mmレンズでは、全範囲でケラレが発生します。
- * FA80～200mmレンズは、焦点距離を135mm以上にすれば使用できます。
- * Z-5Pには、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。(79ページ参照)

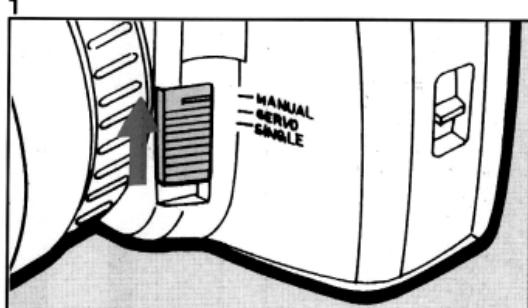
III 応用的な使い方

36



- 2 ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態で、レンズの距離リングを左右に回してください。
- 3 ピントが合うとファインダー内の合焦表示□が点灯して知らせます。そのままシャッターボタンを押し切って撮影してください。

- * ピントが合うと、ファインダー内の合焦表示□の点灯と同時に「ビビッ」と電子音が鳴ります。
- * KAFおよびKAF2マウントレンズを使用しても、フォーカスモードレバーを【MANUAL】にセットすると同じ操作になります。



マニュアルフォーカスレンズを使う場合

従来のKAやKマウントレンズで、開放F値がF5.6以上の明るいレンズ(F1.2~5.6)を使うと、ファインダー内の合焦表示□を利用した手動ピント合わせができます。

使い方

1. フォーカスモードレバーを【MANUAL】にセットします。

* 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けても、ファインダー内の合焦表示□によるピント合わせはできません。

スナップインフォーカス撮影について

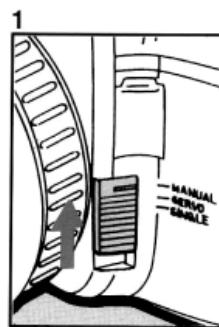
KAおよびKマウントレンズを使用して、フォーカスモードレバーを【SINGLE】にセットすると、別売りのケーブルスイッチFなどを利用してピントが合ったときに自動的にシャッターが切れるスナップインフォーカス撮影ができます。

1. レンズはKAおよびKマウントレンズを使用します。
2. フォーカスモードレバーを【SINGLE】にセットします。
3. 写したいものが通りそうな位置にピントを合わせます。
4. ケーブルスイッチFなどを使って、シャッターボタンを押し切った状態にします。
5. 写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

オートフォーカスが使えない場合

以下の理由で、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示  が使えない場合は、ファインダー内のマット面を利用して従来の一眼レフカメラと同様に手動でピント合わせをしてください。

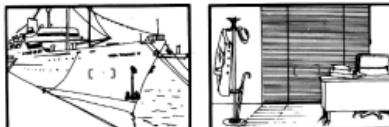
- 「オートフォーカスの苦手な被写体」で合焦表示  が点滅するとき。
- 開放F値がF5.6より暗いレンズを使っているとき。
- ペローズ100mm F 4、シフト28mm F 3.5(シフト状態)、レフレックスタイプのレンズを使用したとき。
- 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けて使用したとき。



使い方

1. フォーカスマードレバーを **MANUAL** にセットします。
2. ファインダーを覗きながら、レンズの距離リングを左右に回してファインダー内の映像が最もはっきり見えるようにピントを合わせ、撮影してください。

(2) オートフォーカスの苦手な被写体



オートフォーカス機構はきわめて高精度のものですが、万能ではありません。被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合があります。ファインダー内の合焦表示  を利用してピント合わせを行なう手動ピント合わせも同様です。そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロックをしたり、フォーカスマードレバーを **MANUAL** にセットして、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。

- a) A F フレーム  に白い壁などの極端にコントラスト(明暗差)の低い被写体がある場合。
- b) A F フレーム  に光を反射しにくい被写体がある場合。
- c) 非常に速い速度で移動している被写体。
- d) A F フレーム  に横線のみの被写体や細かな模様の被写体がある場合。
- e) 遠近のものがA F フレーム  の中に同時に存在する場合。
- f) 反射の強い光、強い逆光(周辺が特に明るい被写体)。

アクセサリーの注意

以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示  を利用した手動ピント合わせができません。ファインダー内のマット面で手動ピント合わせをしてください。

- a) 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使った場合。
- b) オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときには円偏光フィルターをご利用ください。
- c) 「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写撮影の場合。

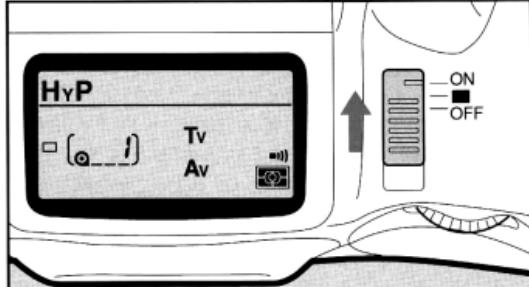
S MCペンタックスFソフト85mm F2.8使用時の注意

約1.5mより近距離の撮影をするときは、レンズの絞りをF2.8~4.5でご使用ください。これより小絞り(F5.6~32)にすると、カメラのオートフォーカス(F1も同様)が誤合焦することがあります。F5.6以上の絞りを使う場合には、一旦レンズの絞りをF4.5に合わせてピント合わせを行ない、フォーカスロックをしたまま希望の絞りに戻して撮影してください。

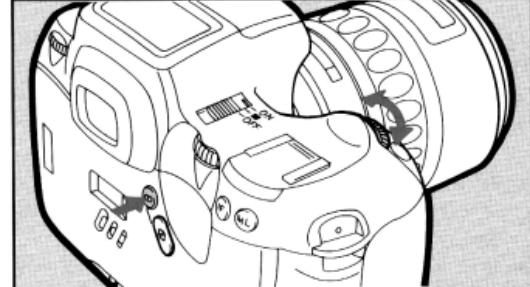
40

(3) 測光モードの切り替えについて

1



2



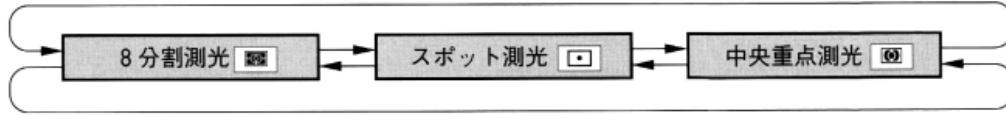
Z-5Pは、撮影者の好みで測光モードを分割測光から中央重点測光あるいはスポット測光に切り替えることができます。

スポット測光は被写体の限られた部分だけに露出を合わせたいときなどに、また、中央重点測光は経験的に露出補正をして撮影したいときなどにご利用ください。

切り替え方法

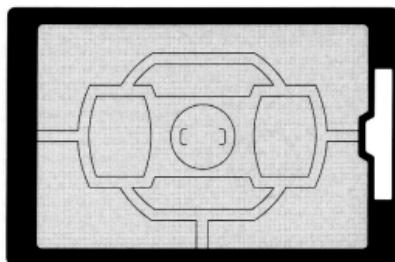
1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. 測光モード切り替えボタン  を押しながら **Tv** ダイレクトダイヤルを回して希望する測光モードを選びます。

右へ



左へ

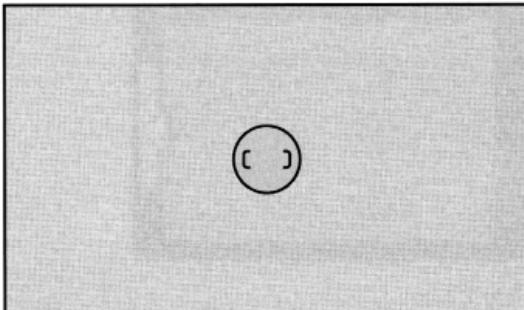
- * 電源スイッチがグリーンポジション■では、測光モードは分割測光になり測光モードの切り替えはできません。
- * レンズ情報接点のないレンズ(Aレンズより前のレンズ)を使用したときは、分割測光は使用できませんので、中央重点測光かスポット測光をご利用ください。電源スイッチがグリーンポジション■では、中央重点測光だけとなります。
- * A50mmF1.2レンズの場合、絞りA位置以外では分割測光なりません。



8分割測光について

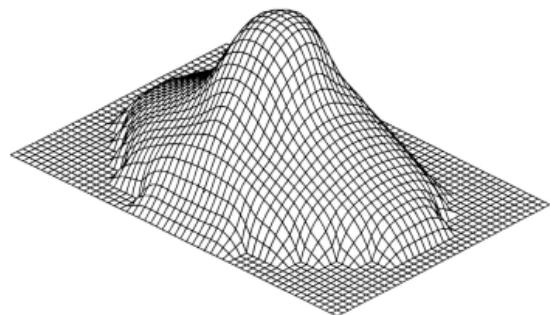
Z-5Pは、高精度の TTL 8分割測光モードが採用されています。図のように画面の中を分割して測光を行ない、様々な光の条件下で最適な露出を得ることができます。

例えば、従来の平均測光方式では逆光の人物撮影のときなどに、背景の明るい部分が全体の露出に影響を与えるため、写したい人物がどうしても暗くなってしまいます。これに対して分割測光では、画面のどの部分にどんな明るさのものがあるのかカメラが判断し、そのまま撮影しても人物が暗くならないよう露出を決定します。その他、逆光以外の明暗差がある条件下でも画面を分割して露出値を計算し、自動的に露出補正をしますから、初心者の方でも安心して撮影を楽しんでいただけます。



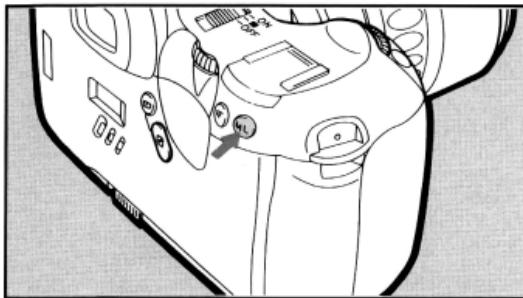
スポット測光について

図のように、ファインダー中央部の限られた範囲だけで露出を測りますので、この部分に露出を合わせたい被写体を入れて撮影してください。
ただし、この部分と他の部分の明暗差が大きい場合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不自然な写真になってしまふことがあります。



中央重点測光について

中央重点測光では、8分割測光のように逆光のときなどに、カメラが自動的に露出を補正することはありますので、経験的に露出を補正して撮影したい場合などにご利用ください。
測光分布は、上図のようになっており、高さが高い部分(中央部分)ほど感度が良くなっていることを表しています。



メモリーロックについて

メモリーロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせて使用すると便利です。

被写体が非常に小さく、適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。

露出を合わせたい物がスポット測光の範囲いっぱいに入るようにして、メモリーロックボタン [ML] を押し、好みの構図に戻してから撮影します。

- * メモリーロックボタン [ML] を押すと10秒間タイマーが働き、露出が記憶されます。
- * メモリーロック中に、シャッターボタンを半押ししたままにすると、メモリーロックボタン [ML] から指を離してもメモリーロックはそのまま継続されます。
- * メモリーロックボタン [ML] を押したときに、オートフォーカスが作動しフォーカスロックしてから露出を固定するように変更できます。変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)
- * メモリーロックボタン [ML] を押すと電子音が鳴ります。
- * メモリーロック中は、ファインダー内に * が表示されます。
- * メモリーロック中にメモリーロックボタン [ML] をもう一度押すと解除できます。

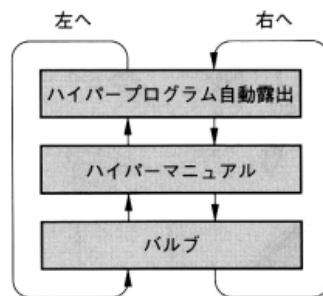
44

(4) 各露出モードを選びます

電源スイッチを **ON** (フルスペックポジション) にします。

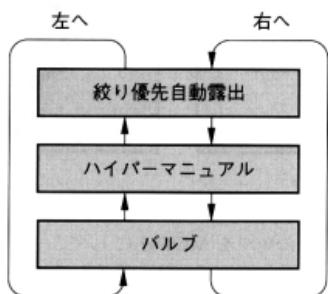
絞りが A 位置の場合

右図のように矢印の順で 3 つの露出モードを切り替えられます。それぞれの露出モードについては、各ページの説明をご覧ください。



絞りがA位置以外の場合

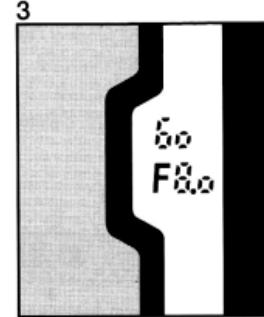
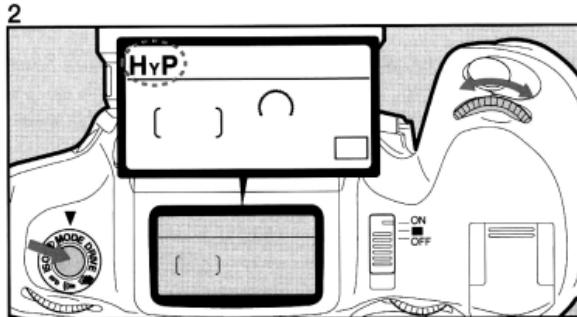
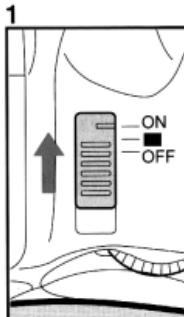
絞りがA位置以外では、下図のように3つの露出モードを切り替えられます。モードの変え方は、絞りがA位置の場合と同様です。



以下の場合には、絞りをA位置から外してご使用ください。なお、Aレンズより前のレンズ（Aポジションのないレンズ）を使用する場合も同様の扱いになります。

- ・プレビューボタンにより被写界深度を確認する場合。
- ・接写リングなど、絞りの運動がきかないアクセサリーを使用した場合。
- ・旧タイプのストロボで、絞りがA位置で使えないもの。

46



1) ハイパープログラム自動露出の使い方

ハイパープログラム自動露出は、プログラム自動露出（22ページ参照）でありながら、ワンタッチでシャッター速度優先自動露出や、絞り優先自動露出に切り替えられるモードです。

絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HyP** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞りが表示されます。

シャッター速度を変えたい場合

Tvダイレクトダイヤルを回すと、即座にシャッター優先自動露出に切り替わります。

* シャッター速度は、絞り値が連動する範囲内できちんと設定できません。

シャッター速度の自動シフトをサービス窓口で禁止(有料)した場合を除く。

* 明るさが変わり、絞り値が連動範囲外になったときは、自動的にシャッター速度がシフトし、表示パネルの□とファインダー内のシャッター速度表示の下の横棒が点滅します。

自動的にシャッター速度がシフトしないように変更できます。

変更はサービス窓口にご用命ください。

* [IF]ボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。このとき、電子音が鳴ります。

※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎると、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。明るすぎるときは、NDフィルターなどをご利用ください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

絞りを変えたい場合

Avダイレクトダイヤルを回すと、即座に絞り優先自動露出に切り替わります。(52ページ参照)

* 絞り値は、シャッター速度が連動する範囲内できちんと設定できません。

絞り値の自動シフトをサービス窓口で禁止(有料)した場合を除く。

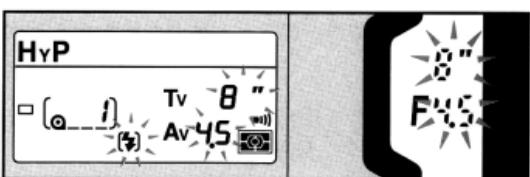
* 明るさが変わり、シャッター速度が連動範囲外になったときは、自動的に絞り値がシフトし、表示パネルの□とファインダー内の絞り値表示の下の横棒が点滅します。

自動的に絞り値がシフトしないように変更できます。

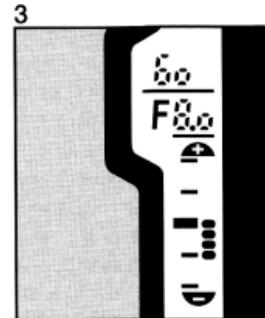
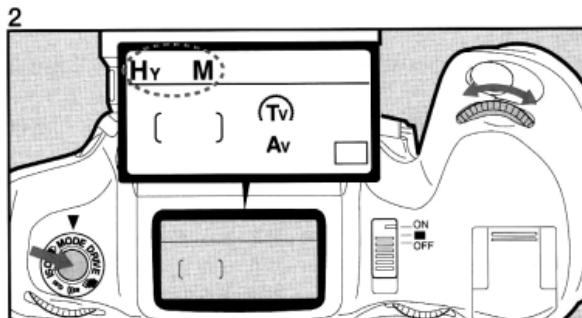
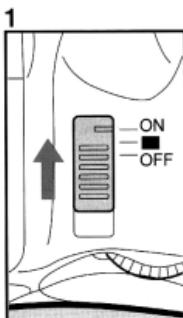
変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)

* [IF]ボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。このとき、電子音が鳴ります。

※



48



2) ハイパーマニュアル露出の使い方

シャッターボタンを半押しすると、露出計が働きます。露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られます。撮影者の作画意図に合わせた露出で撮影することもできます。

Z-5Pのハイパーマニュアルには、ボタン操作一つで瞬時に適正露出が得られる便利な機能があります。

絞りをA位置にした場合

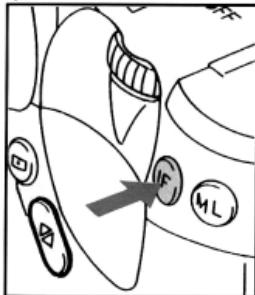
1. 電源スイッチを[ON]にします。

2. モードダイヤルを[MODE]にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに[HyM]の表示を出します。

3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、絞り値とバーグラフが表示され、表示パネルにもバーグラフが表示されます。

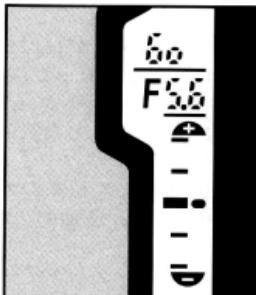
* 表示パネルの□と□およびファインダー内のシャッター速度と絞り表示の下の横棒は、TvダイレクトダイヤルとAvダイレクトダイヤルによって、シャッター速度と絞り値が変更可能であることを表しています。

4



4. **[IF]**ボタンを押すと、シャッター速度と絞り値が自動的に切り替わり、即座に適正露出が得られます。

* 表示パネルとファインダー内のバーグラフの中心に黒丸が移動して適正露出を知らせます。その後、**A v**ダイレクトダイヤルで絞りを、**T v**ダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えれば、好みの露出値で撮影することができます。



* **[IF]**ボタンを押すと、絞り、シャッター速度が変化します。

このとき電子音が鳴ります。

* **[IF]**ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、明るさが変化しても常に適正露出が得られるように、シャッター速度と絞り値が変化しますので、プログラム自動露出と同じ使い方ができます。

* 表示パネルのバーグラフの黒丸が **(+)** 側(ファインダー内は **(-)**)に並んでいるときは露出がオーバー、**(-)** 側(ファインダー内は **(+)**)に並んでいるときは露出がアンダーです。バーグラフの黒丸1個は0.3EVに相当します。ただし、±2EVを越えてオーバー、アンダーになったときは表示パネルの **(+)**(ファインダー内は **(-)**)あるいは **(-)**(ファインダー内は **(+)**)が点滅します。

* 被写体が明るすぎたり暗すぎて、測光範囲外になったときは、ファインダー内と表示パネルのシャッター速度と絞り値表示の両方が点滅します。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。

50

メモリーロックとの組み合わせ

絞りがA位置のハイバーマニュアルのとき、メモリーロックボタン **[ML]** を押して、露出値を記憶させることができます。(43ページメモリーロック参照)この状態で、**T v**ダイレクトダイヤルを回してシャッター速度を変えるとそれに応じて絞り値が、逆に**A v**ダイレクトダイヤルを回すとそれに応じてシャッター速度が変化し、同じ露出値を保ちます。

使用方法

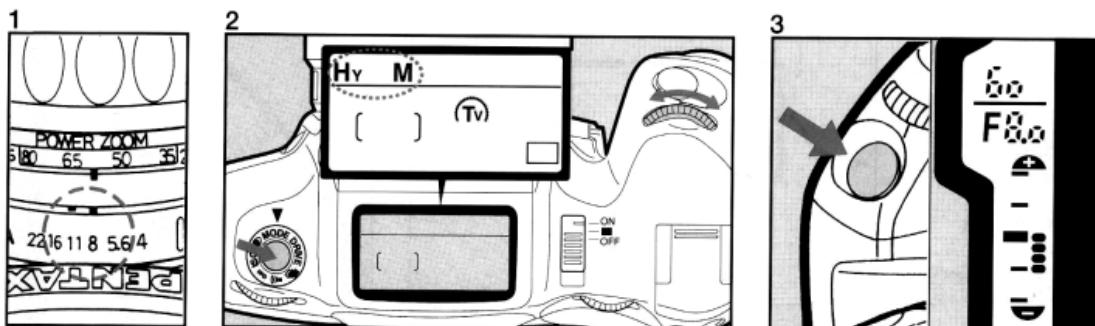
- 絞りをA位置にする。
- 露出モードをハイバーマニュアルにする。
- メモリーロックボタン **[ML]** を押して露出値を記憶させる。
- T v**ダイレクトダイヤルでシャッター速度を、**A v**ダイレクトダイヤルで絞り値を変化させます。

(例)

シャッター速度が1/125秒、絞り値がF 8でメモリーロックを行なった場合。

- T v**ダイレクトダイヤルでシャッター速度を1/250秒にすると自動的に絞り値はF 5.6に変わります。
- T v**ダイレクトダイヤルでシャッター速度を1/60秒にすると自動的に絞り値はF 11に変わります。
- A v**ダイレクトダイヤルで絞り値をF 5.6にすると自動的にシャッター速度は1/250秒に変わります。
- A v**ダイレクトダイヤルで絞り値をF 11にすると自動的にシャッター速度は1/60秒に変わります。

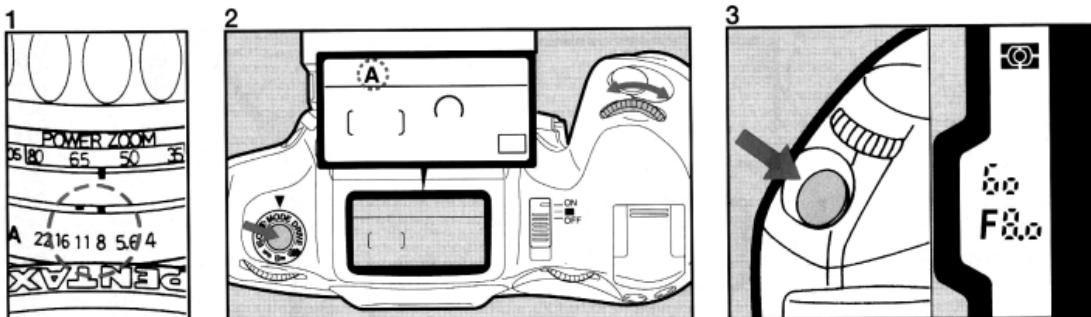
このように、メモリーロック後にシャッター速度や絞り値を変化させても、常に同じ露出値を保ちます。



絞りをA位置以外にした場合

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
 2. モードダイヤルを[MODE]にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに[HvM]の表示を出します。
 3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに設定絞りの目安およびシャッター速度とバーグラフが表示されます。絞りリングで絞りを、Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。
- * 露出の合わせ方と露出警告は、絞りがA位置の場合と同じですが、[IF]ボタンを押すとシャッター速度だけが切り替わります。(49ページ参照)

- * FAおよびF以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません
- * [IF]ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、シャッター速度が明るさによって変化しますので、絞り優先自動露出と同じ使い方ができます。
- * プレビュー機能を押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。プレビュー機能を押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られません。



3) 絞り優先自動露出の使い方

絞りをA位置以外にします。

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを[MODE]にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに[A]の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに絞り値の目安とシャッター速度が表示されます。

* 電源スイッチがグリーンポジション■で、絞りをA位置以外にした場合もこのモードになります。

- * プレビュー機能を押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。なお、プレビュー機能を押したままシャッターを切ると、正しい露出が得られません。

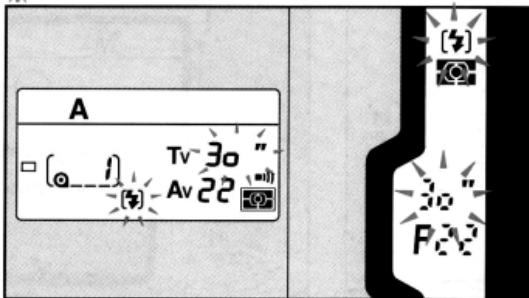
- * FAおよびF以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません

※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようファインダー内や表示パネルのシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎると絞りを小絞り側(数字の大きい方)に、暗すぎると絞りを開放側(数字の小さい方)にして点滅が止まれば撮影できます。

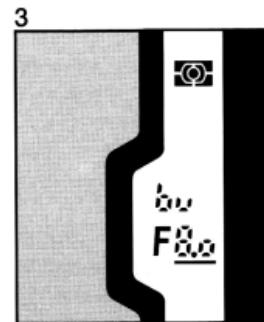
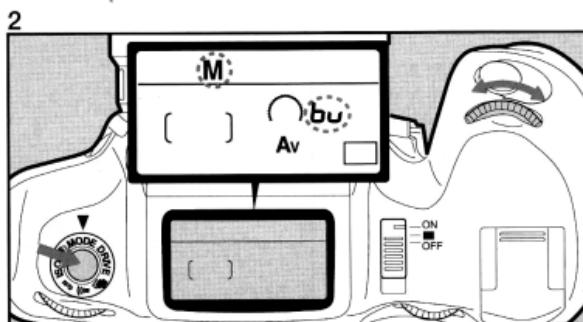
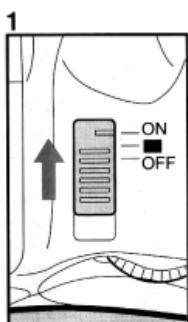
なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。

※



54

応用的な使い方



4) バルブの使い方

花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

* 新品のリチウム電池(常温)で、約6時間の長時間露出ができます。

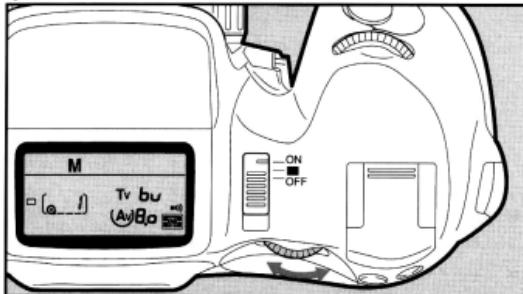
* シャッターボタンを押している間、表示パネルの右上に露出時間の目安が表示されます。

絞りA位置の場合

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながら **Tv** ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **M** と **bu** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **bu** と絞り値が表示されます。

* 表示パネルの **U** およびファインダー内の絞り表示の下の横棒は、**Av** ダイレクトダイヤルによって絞り値が変更可能であることを表わしています。

4



4. Avダイレクトダイヤルで絞りを選びます。

絞りをA位置以外にした場合

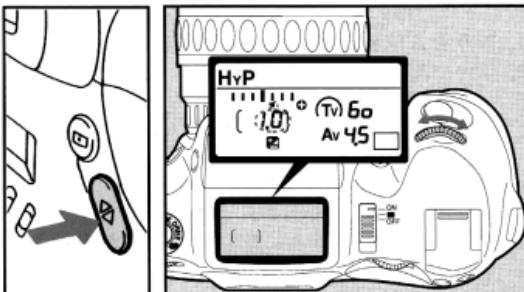
- 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
- モードダイヤルを[MODE]にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに[M]と[bu]の表示を出します。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に[bu]が表示されます。また、ファインダー内と表示パネルに絞り値の目安が表示されます。

応用的な使い方

- * FAおよびF以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません
- * プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。
- * バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチF」をレリーズソケットキャップFDを外してからレリーズソケットに差し込んでご利用ください。

56

(5) 露出補正について



意図的に露出オーバー(明るい写真)や露出アンダー(暗い写真)にしたいときに露出を補正するために使います。

セット方法

露出補正ボタン[]を押したままTvダイレクトダイヤルを回して希望の補正值を選びます。

* 補正是-4~+4EVの範囲で0.5EVごとに行えます。

露出補正のステップを0.3EVに変更することができます。

変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)

* パーグラフの黒丸の移動量1つが0.5EV(補正ステップが0.3EVのときは0.3EV)に相当します。ただし、-3~-+3EVを越えて設定した場合(補正ステップが0.3EVのときは-2~-+2EV)は、表示パネルのパーグラフの[+] (ファインダー内は[])あるいは[-] (ファインダー内は[])が点滅して知らせます。

* 露出補正中は、表示パネルとファインダー内にパーグラフと[]が表示されます。

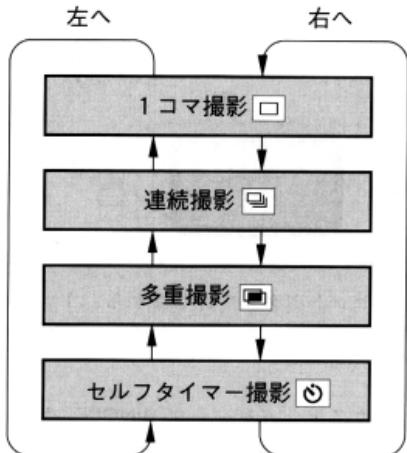
* ハイバーマニュアルのときのパーグラフの表示は、露出計が働いている間は露出のオーバー・アンダーを示す表示がされますが、露出計がOFFになると露出補正值の表示になります。

* 電源スイッチを切っても露出補正は解除されません。

* 電源スイッチがグリーンポジション[■]の場合は、露出補正是働きません。

応用的な使い方

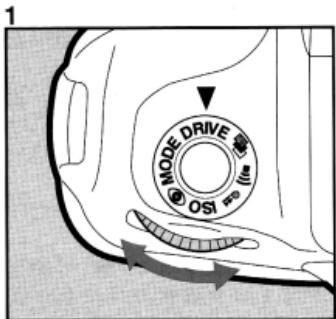
ドライブモードの種類



- : シャッターを押し切ると、1コマだけシャッターが切れます。
- : シャッターを押し切っている間、連続的にシャッターが切れます。(58ページ)
- : 同じコマに、重ねて撮影します。(59ページ)
- : セルフタイマー撮影をします。(62ページ)

* 電源スイッチがグリーンポジション の場合はドライブモードは1コマ撮影だけになります。

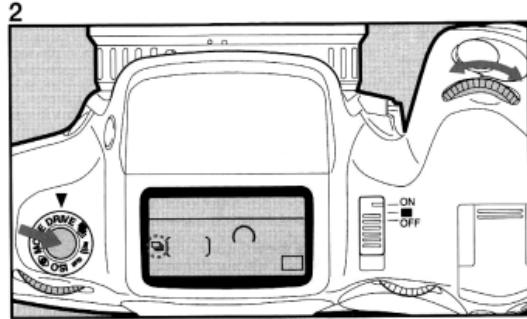
58



1) 連続撮影の使い方

シャッターを押している間、連続的にシャッターが切れます。

- モードダイヤルを **DRIVE** に合わせます。

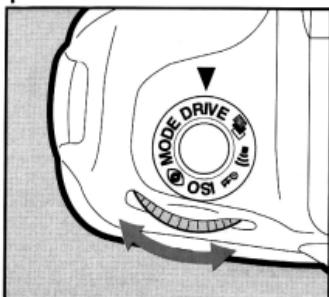


- モードセットボタンを押しながら、TVダイレクトダイヤルを回して表示パネルに を表示させます。

* フォーカスモードレバーが **SINGLE** では、ピント合わせは1コマ目のみ行なわれます。2コマ目からは、1コマ目で合わせたピントのままシャッターが連続的に切れます。再びピント合わせを行なうには、シャッターボタンから一旦指を離してください。

* 内蔵ストロボを使うときは、充電が完了してからシャッターが切れます。

1



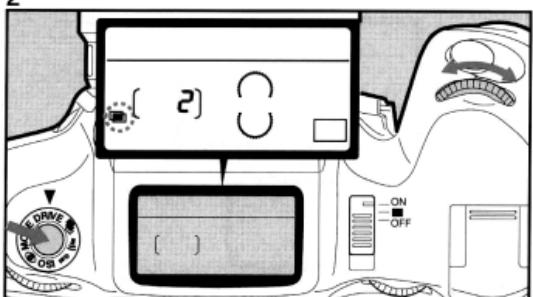
2) 多重露出撮影の使い方

フィルムの同じコマに重ねて撮影できますので、アイデア次第で面白いトリック写真などを作ることができます。

多重露出では、背景が黒いもの（夜景など）に人物などをストロボ撮影で重ねると比較的良い結果を得ることができます。

- モードダイヤルを[DRIVE]に合わせます。

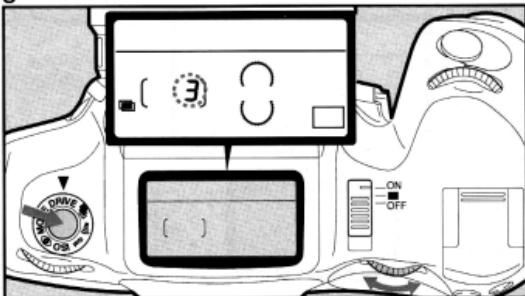
2



- モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに[]を表示させます。

60

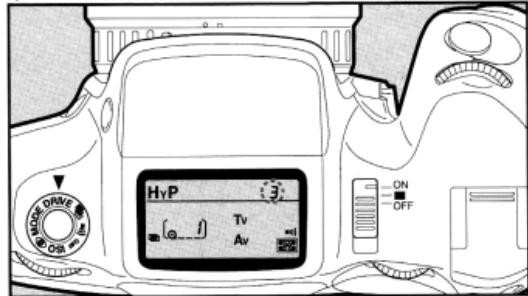
3



- モードセットボタンを押したまま、Avダイレクトダイヤルを回して、多重露出の回数（1コマの中に写し込む回数）を決めます。

* 1回の多重露出で設定できる写し込み回数は、2～9回です。

4

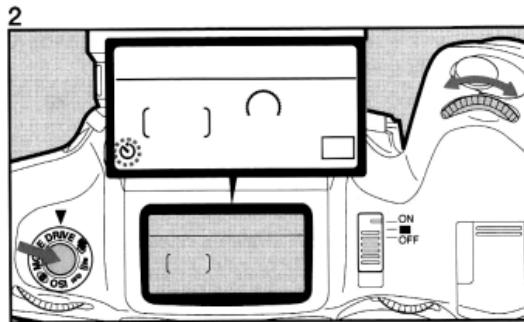
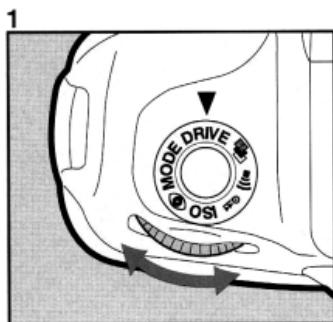


- モードセットボタンから指を離すと、設定した回数が表示パネルの右上に表示されます。

- * シャッターボタンを押して撮影する度に回数表示は減算されます。
- * 多重露出の途中は、LCD表示パネルの [] が点滅してお知らせします。
- * 多重露出撮影を途中で解除したいときは、他のドライブモードに変更するか、電源スイッチを [OFF] かグリーンポジション [■] にしてください。なお、電源スイッチで解除した場合は、電源スイッチを [ON] に戻したとき、1コマ撮影モード [] になります。
- * 撮影終了後は多重露出の回数設定は2に戻り、ドライブモードは1コマ撮影 [] になります。



62



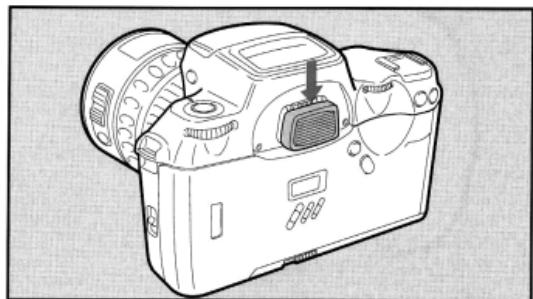
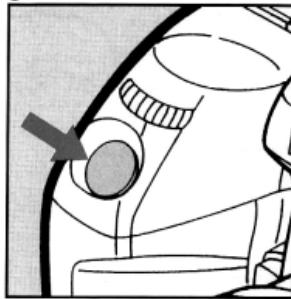
3) セルフタイマー撮影の使い方

セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います

1. モードダイヤルを [DRIVE] に合わせます。

2. モードセットボタンを押しながら、TVダイレクトダイヤルを回して表示パネルに [S] を表示させます。

3



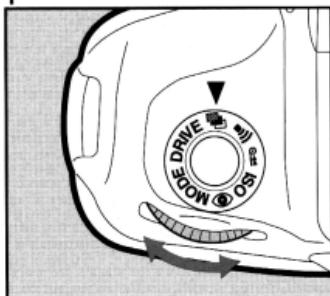
3. シャッター ボタンを半押しして写したいものにピントを合わせたままシャッター ボタンを押し切ると、セルフタイマーが始動し、約12秒後にシャッターが切れます。

- * セルフタイマーの作動中は、セルフタイマーランプと電子音で知らせ、シャッターが切れる約2秒前から、ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音「ビッピッピッ」になります。
- * セルフタイマーを始動後に中止したいときは、電源スイッチを [OFF] にしてください。この場合、セルフタイマー撮影モードは解除されません。

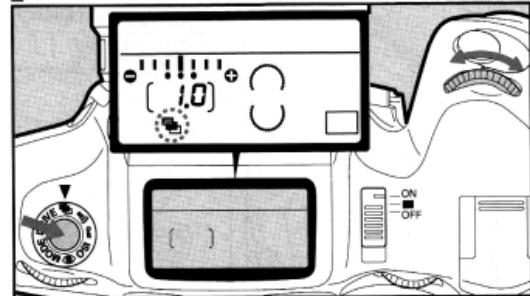
64

(7) オートブラケッティング撮影の使い方

1



2



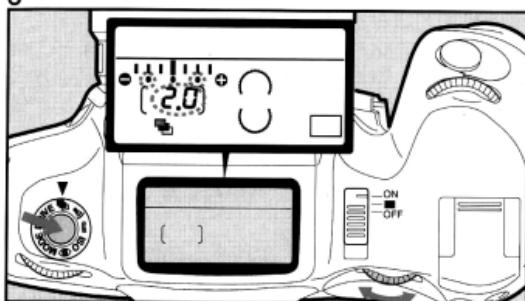
オートブラケッティングは、撮影時に露出補正が必要な被写体で、最終的な補正值を決定しにくいときなど、3コマ連続の段階露出を行なうことができます。

Z-5 Pでは、露出モードがハイバープログラムあるいは絞り優先でオートブラケッティング撮影が可能です。

- * 電源スイッチがグリーンポジション [■] では、オートブラケッティング撮影はできません。

1. モードダイヤルを [■] に合わせます。
2. モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに [■] を表示させます。

- * 表示パネルにバーグラフと補正值が表示されます。このとき、シャッター ボタンを半押しするとファインダー内にもバーグラフが表示されます。



3. モードセットボタンを押したまま A v ダイレクトダイヤルを回して、補正量を決めます。

* 補正は $-4 \sim +4$ EV の範囲で 0.5 EV ごとに行えます。

補正のステップを 0.3 EV に変更することができます。

変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)

* バーグラフの黒丸の移動量 1つが 0.5 EV (補正ステップが 0.3 EV のときは 0.3 EV) に相当します。

ただし、 $-3 \sim +3$ EV を越えて設定した場合 (補正ステップを 0.3 EV にしたときは $-2 \sim +2$ EV) は、表示パネルのバーグラフの \oplus (ファインダー内は \blacksquare) あるいは \ominus (ファインダー内は \blacksquare) が点滅して知らせます。

4. シャッターボタンを押し切ると、記憶させた補正量に従って 3 コマ連続的に撮影されます。

* 1 コマ目 = ± 0 、 2 コマ目 = アンダー露出、 3 コマ目 = オーバー露出の順で撮影されます。

* 電池を入れ替えるまでは前回の補正量が残っています。

* 1 コマ目の撮影終了後、シャッターボタンを半押しに戻すと、表示パネルの \blacksquare が点滅して 2 コマ目の撮影の待機状態となり、シャッターチャンスを待つことができます。このとき、シャッターボタンから指を離した場合、表示パネルの \blacksquare は約 20 秒間点滅した後点灯に変わり、再度 1 コマ目の待機状態に戻ります。

* 補正量が小さい場合、ネガフィルムではほとんど効果が得られませんのでご注意ください。(特にネガカラーのオートプリント仕上げの場合。)

* オートブラケッティング撮影中は、1 コマごとに測光を行ないます。

* ピントは、1 コマ目の撮影位置でフォーカスロックされます。

露出補正と組み合わせて使う場合

「露出補正」(56ページ)と組み合わせて使うと、例のようにオーバー方向 (+) のみやアンダー方向 (-) のみの、より高度なオートブラケッティング撮影が可能です。

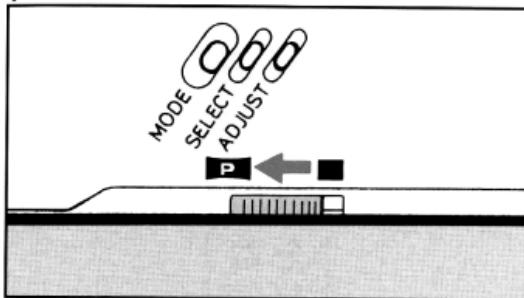
例) オーバー方向だけの補正をかけるとき。

1. オートブラケッティングの補正量を ± 0.5 EV に設定する。

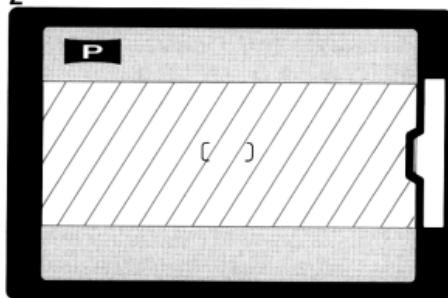
2. $+0.5$ EV の露出補正をかける。(56ページ参照)

3. この状態でオートブラケッティング撮影をすれば、1 コマ目 = $+0.5$ EV 、 2 コマ目 = ± 0 EV 、 3 コマ目 = $+1.0$ EV の補正がされます。

1



2



「Z-5 P」では、撮影途中でも自由にパノラマと標準撮影とを切り替えることができます。

パノラマ撮影では横長（フィルム上で13×36mm）に写りますので、パノラマプリントにするとダイナミックな写真が楽しめます。

1. パノラマ撮影に切り替えます

パノラマ切り替えスイッチを **P** に合わせるとパノラマ撮影モードになります。

* パノラマ切り替えスイッチのセットは、パノラマ撮影 **[P]** か標準撮影 **[]** どちらかの止まる位置まで確実に動かしてください。

2. 撮影します

パノラマの視野枠内（斜線部分）に写したいものを入れて撮影してください。

* シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **[P]** が表示されます。

* プリントする際に画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を取っておくと安心です。

* パノラマ撮影モードでは、データを写し込み可能な状態にしても、データは写しこれません。

68

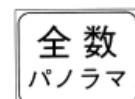
パノラマプリントについて

パノラマモードで撮影されたフィルムの現像／プリントをご依頼になるときは、必ず付属のパノラマシールをフィルム（パトローネ）に貼り、パノラマプリントとご指定ください。

- ・パノラマと標準撮影を途中で切り替えて撮影した場合 →



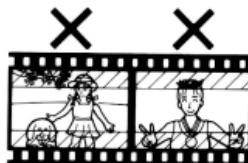
- ・フィルム全数をすべてパノラマで撮影した場合 →



- * パノラマモードで撮影した場合、通常の同時プリントに比べ日数、料金がかかります。詳しくは、お店でおたずねください。
- * パノラマ／標準混在の場合、お店によっては同時に仕上がらないことがありますので、現像のみを先に仕上げてプリントを依頼するなどの方法がありますので、お店にご相談ください。
- * パノラマ撮影では、図のように標準撮影のフィルム1コマ分の上下をカットするだけですから撮影枚数は、標準撮影のときと同じです。



- * パノラマモードで撮影したフィルムを通常サイズのプリントにすると、上下に黒い帯が写し込まれます。
- * パノラマプリントされるのはフィルム中央部のおよそ12mm×35mmの範囲で、フィルム上に写し込まれる範囲は、これより若干広くなりますが、ファインダーで見える範囲はパノラマプリントされる範囲とほぼ同じになります。
- * パノラマプリントはおよそ89×254mmのサイズにプリントされます。これは標準撮影されたフィルムを六ツ切りサイズに引き伸ばしたものとほぼ同じ倍率になります。
- * 標準撮影のときは、必ずファインダー内のパノラマシグナル [■] が消えていることを確認してください。パノラマ撮影になっていることに気が付かずに撮影すると、図のようにフィルムの上下の必要な部分がカットされてしまいます。

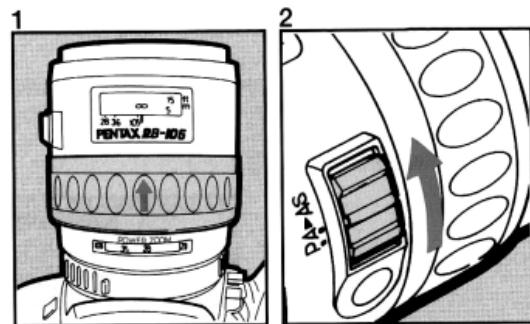
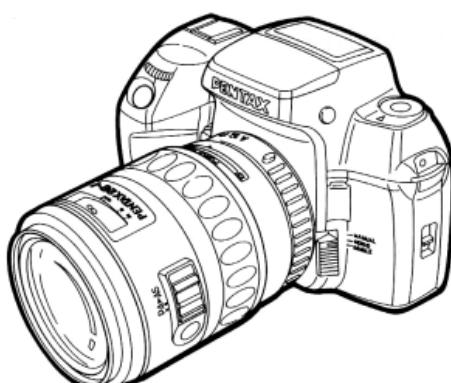


70

(9) パワーズームの拡張機能

F AズームレンズをZ-5Pと組み合わせると、次のオートズーム機能を使うことができます。

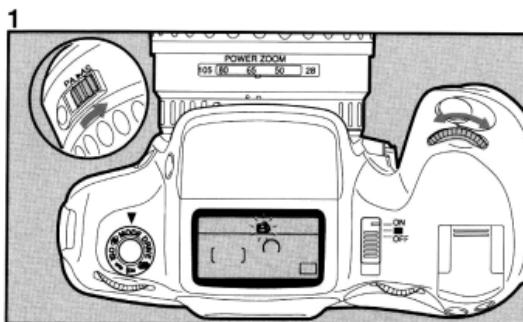
- ①ズームクリップモード
- ②露光間ズームモード



オートズーム機能を使うための準備

1. 図のように[POWER ZOOM]が見える状態にします。
2. レンズのオートズームスイッチを[A]（一部のレンズでは[AZ]）に合わせます。

* これで、各種オートズーム機能が使える状態になります。各機能の使い方については、それぞれのページをご覧ください。



①ズームクリップモードの使い方

ズームクリップモードは、カメラに焦点距離をあらかじめ記憶させておくことで、必要なときにボタン一つでその焦点距離を呼び出す機能です。

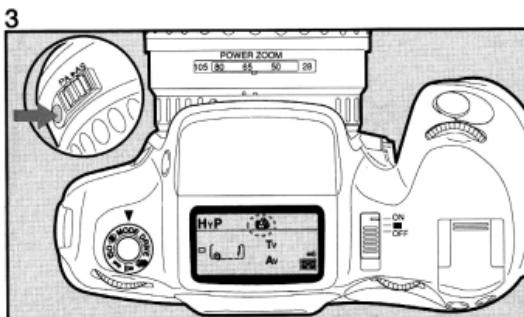
例えば、動きの激しいスポーツ写真で、予測される場面の撮影範囲(焦点距離)を記憶させておけばシャッターチャンスをつかむのに有利になります。



1. レンズのオートズームスイッチを[AS](一部のレンズでは[MODE])側に押し付けたままTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルの[■]表示を点滅させてください。
2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを回して、好みの焦点距離に合わせます。

* このとき、自動的にピント合わせも行なわれます。ただし、[□]表示と合焦音は出ません。

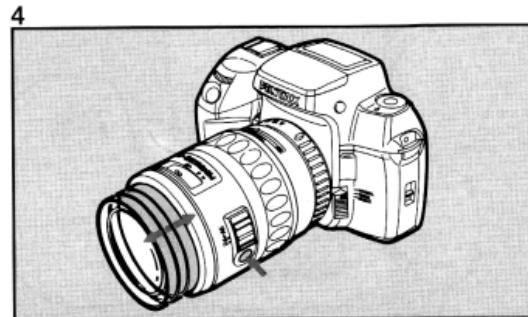
72



3. レンズのズームセットボタンを押すと、表示パネルの[■]表示が点灯に変わり、焦点距離が記憶されます。

* 新たに焦点距離を記憶させた場合は、前の内容は消えてしまいます。

* 電源スイッチを[OFF]にしても、記憶した内容は消えません。なお、電池を入れ直すと記憶していた内容は消えてしましますのでご注意ください。



4. ズームセットボタンを押して、記憶した焦点距離を呼び出して撮影します。

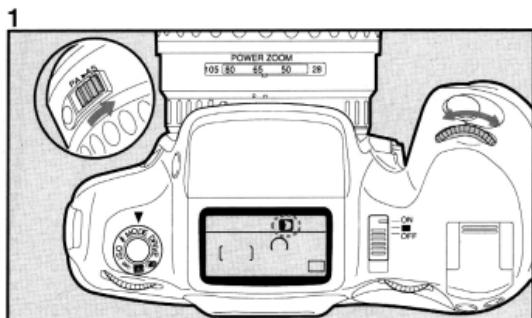
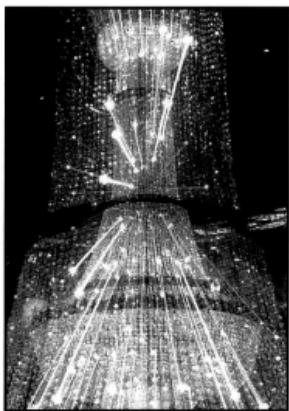
* ズームセットボタンを押すと自動的にピント合わせも行なわれます。ただし、[□]表示と合焦音は出ません。

* ズームクリップモードを解除するときは、オートズームスイッチを[P](一部のレンズでは[PZ])に戻してください。

* レンズを外すと記憶していた内容は消えてしまうのでご注意ください。

②露光間ズームモードの使い方

露光間ズームは、シャッターを開いて露光を行なっている間に広角側から望遠側にオートズーミングすることによって、被写体映像の芯をとらえながら、輪郭を放射方向に流した写真を作ることができます。



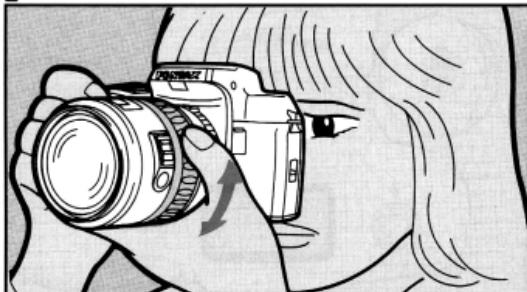
1. レンズのオートズームスイッチを [AS] (一部のレンズでは [MODE]) 側に押し付けたまま T v ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに □ 表示を出してください。

- * 露光間ズームモードを解除するときは、オートズームスイッチを [P] (一部のレンズでは [PZ]) に戻してください。

- * 露光間ズームモードでは、外付けストロボを後幕シンクロにセットしても先幕シンクロで制御されます。

74

2



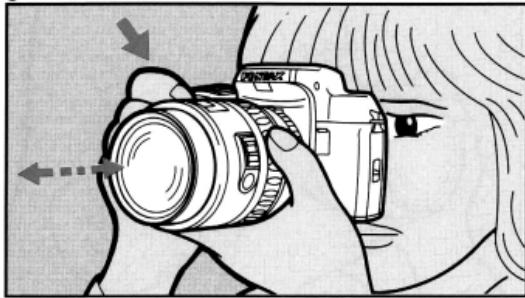
2. ズームリングを操作し、撮影意図に合うような広角側の焦点距離にしてください。

- * 露光間ズームの効果を出すために、なるべくシャッター速度が遅くなるように露出を決めてください。

- * ハイパープログラム自動露出とプログラム自動露出(電源スイッチがグリーンポジション □ の場合のみ)では、できるだけシャッター速度が遅くなるように露出が決定されます。

- * シャッターを切ってから、オートズーミングが行なわれるタイミングは、そのときのシャッター速度の半分の時間が経過するまではズーミングしないで、後半(シャッター速度の残り時間)でオートズーミングを行ないます。例えば、シャッター速度を1秒に設定すると、シャッターを切ってから0.5秒間はズーミングしないで、後半の0.5秒間だけオートズームを行ないます。

3



3. シャッター ボタンを押し切ると、そのときのシャッター速度に応じて露光間ズームを行ない撮影します。

* シャッター速度が速いと、ズーミングする時間が短くなり、ほとんどオートズームされないので、露光間ズームの効果が得られません。例えば、28~105mmレンズの場合に28mmから105mmまでオートズームするのに約1秒かかりますので、シャッター速度を2秒以上に設定しないと28mm~105mmまでのズーミングはされません。なお、シャッター速度を遅くしすぎると、ズー

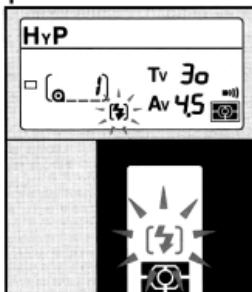
ミング終了後もシャッターが開いているため、被写体の芯が2つできることになります。

- * ズーム比をあまり大きくすると、全体にまとまりの悪い写真になりやすいのでご注意ください。
- * 露光間ズームは低速シャッターで撮影しますので、三脚などの利用をお勧めします。

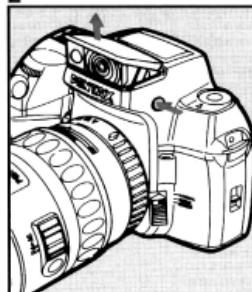
76

(10) 内蔵ストロボを使います

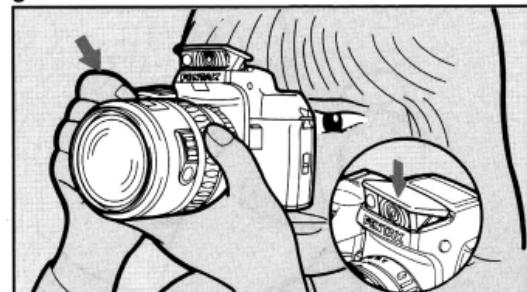
1



2



3



Z-5 Pの内蔵ストロボは、周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが組み合わされますので、簡単にストロボ撮影ができます。

1. ハイバープログラム自動露出にし、シャッター ボタンを半押しすると、周りが暗いときや逆光のときは、表示パネルとファインダー内の[]が点滅して、ストロボの使用を勧めます。
2. ストロボスイッチを押して、ストロボを上に飛び出させます。

* 充電が自動的に始まり、充電が終わると表示パネルに[]が表示されます。シャッター ボタンを

半押しすると、ファインダー内にも[]が表示されます。

3. シャッター ボタンを押し切って撮影をします。

* 明るさによってシャッター速度は、1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ使用時は、低速限界は1/60秒になります。
* 撮影後、内蔵ストロボはストロボ上部の矢印部分を押して収納してください。

* カメラのフォーカスモードレバーが[SERVO]になっている場合、シャッターボタンを押していると、ストロボは充電されません。[SINGLE]では、ピントが合いフォーカスロックされるまで充電されません。

* ストロボの充電中はシャッターは切れません。

絞り優先自動露出、ハイバーマニュアル露出を使うとき

ピントの合う範囲(被写界深度)を変えて撮影したいときや撮影距離を遠くしたいときなどに、絞りを自由に調節してストロボ撮影ができます。絞り優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

絞り優先自動露出

* 明るさによってシャッター速度が1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ使用時は、1/250秒固定になります。ハイバーマニュアルで[F]ボタンを押したときも同様です。

* ハイバープログラム自動露出からAvダイヤルで絞り優先自動露出にしたとき、設定可能な絞り値の範囲は、シャッター速度が変化できる範囲です。

絞り値の自動シフトをサービス窓口で禁止(有料)した場合は、値り値は開放から最小絞りまで設定できます。

* ハイバープログラム自動露出からTvダイヤルでシャッター優先自動露出にしたとき、設定可能なシャッター速度範囲は1/250秒から絞りが最小絞りになるときのシャッター速度までです。

シャッター速度の自動シフトをサービス窓口で禁止(有料)した場合は、シャッター速度は1/250秒~30秒まで設定できます。

78

ハイバーマニュアル露出

* 絞りやシャッター速度(1/250秒以下)を自由に変えてストロボ撮影ができます。

使用絞りから撮影距離を計算します

遠距離側の目安 $G \cdot N \div \text{使用絞り}$

近距離側の目安 $\text{遠距離側目安} \div 4.9$ (注)

ただし、0.7m以下の距離では使えません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出がオーバーとなります。

※ $G \cdot N$ =ガイドナンバー

注:割り算で使用した数値の「4.9」は、Z-5Pの内蔵ストロボを単独で使用した場合のみに適用される数値です。

撮影距離から使用絞りを計算します

$G \cdot N \div \text{撮影距離} = \text{使用絞り}$

計算で出た数字が「3」のようにレンズの絞り値にならない値になったときは、一般的に数字の小さい方(2.8)にします。

なお、 $G \cdot N$ は使用するフィルム感度(I SO)により下の表のようになります。

ISO25 → $G \cdot N 7$	ISO200 → $G \cdot N 20$
ISO50 → $G \cdot N 10$	ISO400 → $G \cdot N 28$
ISO100 → $G \cdot N 14$	

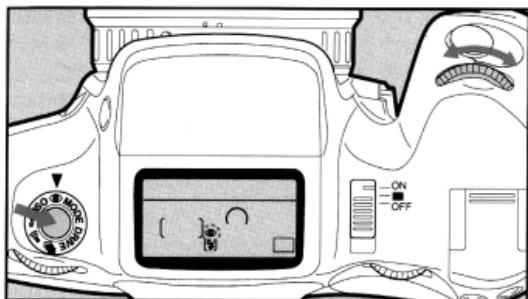
ここでISO100のフィルムを絞りF3.5で使うときの例をあげます。

ストロボの撮影距離範囲を計算します。

$$G \cdot N 14 \div F 3.5 = 4$$

$$4 \div 4.9 = \text{約}0.8$$

従って、約0.8mから4mの範囲でストロボが使えます。



赤目軽減機能について

Z-5 Pには、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。

シャッターが切れる直前にストロボ発光(小光量)が行われ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので目が赤く写るのを目立たなくすることができます。

セット方法

モードダイヤルを **[●]** に合わせ、モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに **[●]** を表示させます。

* グリーンポジションでは赤目軽減機能は使用できません。

* 赤目軽減機能とAF500FTZなどのストロボのスレーブ機能を組み合わせて撮影をすると、1度目のプリ発光で外付けストロボが発光しますので、スレーブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。

* 外付けストロボのみを使用しているときは、表示パネルに **[●]** が表示されていてもストロボ2度発光による赤目軽減機能は働きません。

* 赤目軽減機能の解除は、セット時と同様に表示パネルの **[●]** 表示を消してください。

赤目現象について

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。これは、ストロボの光が目の網膜に反射するために起こる現象と言われています。

赤目を完全に防ぐことはできませんが、できるだけ周りを明るくして撮影するか、ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用すると軽減することができます。外付けのストロボをご使用のときは、ストロボをできるだけカメラから離すと効果があります。

80

日中シンクロについて

逆光で被写体の顔が陰になってしまうような場合に、ストロボを利用すると陰の取れたきれいな写真が撮れます。

* 日中シンクロでは、シャッター速度や絞りの変化できる範囲が限られていますので、この範囲を越えた明るさでは、露出がオーバーやアンダーになりますので、ご注意ください。

ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出(電源スイッチがグリーンポジション **[■]** の場合のみ)、絞り優先自動露出では、シャッター速度、あるいは絞り値が周りの明るさによって変化しますのでそのままストロボ撮影をするだけで簡単に日中シンクロができます。

低速シンクロについて

暗い背景で人物撮影をするとき、ストロボを利用すると、人物にはストロボ光が当たり、背景も遅いシャッター速度でバランス良く写せます。

露出モードは、ハイバーマニュアル露出とシャッター優先自動露出が使えます。

ハイバーマニュアル露出の場合

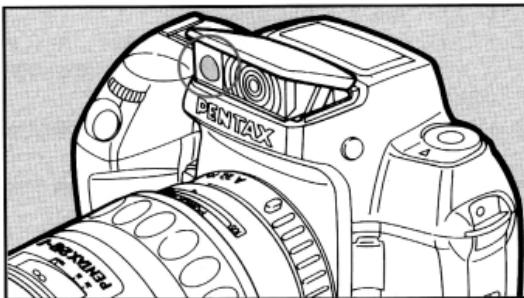
1. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させます。
2. ハイバーマニュアル露出にします。
3. 適正露出になるように適当なシャッター速度と絞りを選んでください。(49ページ参照)
4. 撮影します。

* 「1.」の操作は、どの時点で行なっても結構です。

シャッター優先自動露出の場合

1. ハイバープログラム自動露出の状態で、Tvダイレクトダイヤルを回してシャッター優先自動露出にします。
2. 1/250秒以下の好みのシャッター速度を選びます。
3. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させます。
4. 撮影します。

* 低速シンクロの場合は、カメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。



A Fスポットビームについて

暗いところではオートフォーカスの精度が低下しますが、こんなとき内蔵ストロボを飛び出させてシャッターボタンを半押しすると、赤色光(A Fスポットビーム)を自動的に投光して約1~4mの範囲で快適にオートフォーカスを作動させることができます。

* A Fスポットビームが働くのは、フォーカスマードレバーが[SINGLE]の場合だけです。

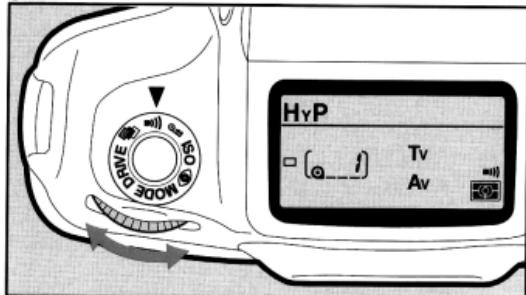
* ストロボを使いたくないときは、ピントが合ったところでフォーカスロックしたまま、内蔵ストロボを収納してください。

* AF330FTZなど、外付けストロボのA Fスポットビームを使用するときは、内蔵ストロボのA Fスポットビームは働きません。

* 明るいところでは、A Fスポットビームは作動しません。

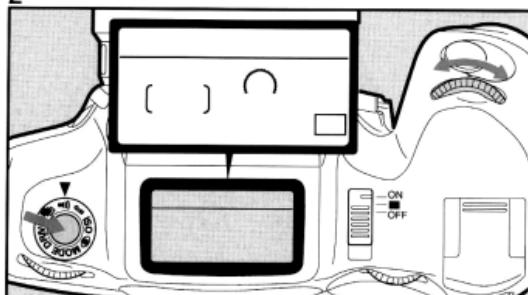
(11) 電子音を消すには

1



Z-5 Pは、ピントが合ったときやセルフタイマー動作時および **[F]** ボタンやメモリーロックボタンを押したときに電子音が鳴りますが、撮影時に電子音を鳴らしたくない場合には電子音を消すことができます。

2



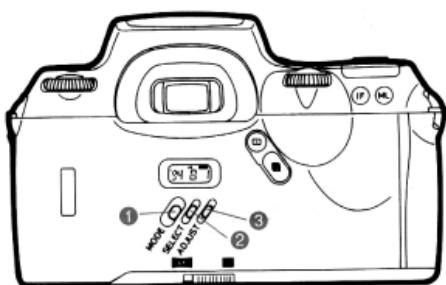
変更方法

- モードダイヤルを **[■]** に合わせます。
- モードセットボタンを押したまま **Tv** ダイレクトダイヤルを回して表示パネルの **[■]** を消します。

* 電子音を出す場合には、同様の操作で表示パネルに **[■]** を出してください。

84

(12) クォーツデータのデータ修正



- ① = **[MODE]** ボタン
② = **[SELECT]** ボタン
③ = **[ADJUST]** ボタン

データの修正方法

- ②の **[SELECT]** ボタンを押すと数字が点滅します。押し直すと、点滅する位置が変わりますので、修正したい数字を点滅させます。
点滅の順番：年月日の表示のとき 年→月→日→時分表示のとき 時→分→：→
- ③の **[ADJUST]** ボタンを希望の数字が出るまで繰り返し押し、点滅させた数字を変更します。

* **[ADJUST]** ボタンは、一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約 2~3 秒後からは早送りされます。
* データの修正を行うときは、コインなどを利用してください。



「年月日」の修正

- ②の[SELECT]ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。
- ③の[ADJUST]ボタンを押して、データを合わせます。
- 修正後は、②の[SELECT]ボタンを押して、点滅を止めます。

「日時：分」の修正

- ②の[SELECT]ボタンを押し、時・分・「：」表示のうち修正したい数字[秒の場合は：]を点滅させます。
- ③の[ADJUST]ボタンを押して、数字を合わせます。
- 秒「：」を合わせるには、③の[ADJUST]ボタンを、時報などに合わせて押すと0秒になります。
- 修正後は、②の[SELECT]ボタンを押して、点滅を止めます。

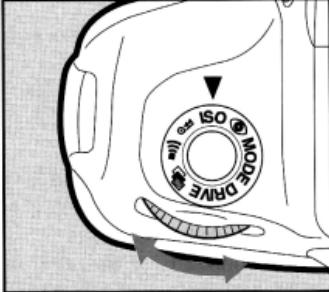
クオーツデータ使用上の注意

- * 「年月日」と「日時：分」は同時に写し込めません。
- * データの使用可能温度は約50°C ~ 0°Cですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- * 使用できるフィルムは、感度がISO25~1600までのものです。感度のセットはカメラにDXフィルムを入れると自動的に合わせられます。
- * 高感度フィルム(ISO 1000以上)を使ったときは、写し込まれる文字がじむことがあります。
- * ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- * 修正途中(点滅表示中)は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
- * パノラマ撮影モードでは、データを写し込み可能な状態にしても、データは写し込まれません。
- * クオーツデータは、3Vリチウム電池[CR2025]を使用しています。

電池の寿命は約3年です。写真のデータが薄くなったり、写らなくなったりしたときは、最寄りのペンタックスサービスセンターで新しい電池と交換してください。(有料)

86 (13) フィルム感度 (ISO) のマニュアル設定

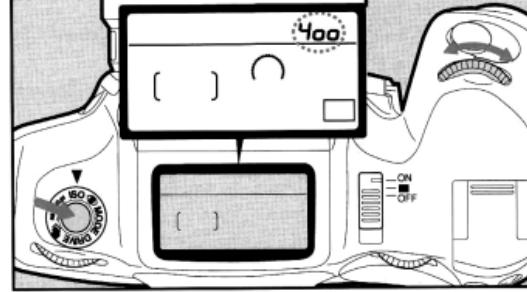
1



Z-5Pは、フィルムローディング時、フィルムのDXコードにより自動的にフィルム感度を読み取ることができます。撮影者が任意に感度設定を変えることができます。

また、DXコードの付いていないフィルムを使う場合はマニュアルでISO感度を設定してください。設定をしないと、前回設定されたISO感度になってしまいます。

2



変更方法

- モードダイヤルを[ISO]に合わせます。
- モードセットボタンを押したまま、TVダイレクトダイヤルを回して希望のISO感度に合わせます。
 - * モードダイヤルを[ISO]に合わせて、モードセットボタンを押すと、現在設定されているフィルム感度(ISO)が表示パネルに表示されます。
 - * DXコードで読み取ったフィルム感度とマニュアル設定したフィルム感度が異なった場合、表示パネルに[ISO]が出て知らせます。

(14) 外付けストロボの使い方

カメラの内蔵ストロボでは光量が不足するときは、外付けストロボを利用してください。（結婚披露宴やパーティーなどで便利です）

TTLオートモード付きストロボを使います。

1. カメラのホットシューカバーを外し、ストロボを取り付けます。
2. ストロボのモードをTTLオートにします。カメラの撮影モードはハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出（電源スイッチがグリーンポジション■の場合のみ）、絞り優先自動露出のいずれかにセットします。
3. ストロボの電源スイッチを入れます。
4. ストロボの充電完了を確認します。ストロボの充電完了ランプが点灯すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内の■が点灯しますので、ファインダーでも充電完了の確認ができます。
5. ピントを合わせて撮影します。

* 充電が完了すると、周りの明るさによってシャッター速度は、1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ使用時は低速限界は1/60秒になります。

* カメラの露出モードをハイパーマニュアル露出にすると、シャッター速度や絞りを自由に選んでストロボ撮影ができますので、ピントの合う範囲を変えたり、ぶれの効果を変えたいときなどにご利用いただけます。

外付けストロボの多灯撮影

2個以上の外付けストロボを同時に使用する場合は、88ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうしを組み合わせるか、TYPE BとTYPE CあるいはTYPE DとTYPE Eの組み合わせでお使いください。内蔵ストロボは、どのタイプとでも組み合わせ可能です。

ストロボ機能一覧

カメラの機能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D	TYPE E
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる。	○	○	○	○	○
ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出では絞りが自動セットされる。	○	○	○	○	○
ファインダー内でオートチェックができる。		○	○		
TTLオートストロボ撮影ができる。	○	○	○	○注1	
ハイパーマニュアル露出、ハイパープログラムからのシャッター優先自動露出では低速シンクロができる。	○	○	○	○	○
AFスポットビームが使える。	○	○	○		
後幕シンクロ撮影ができる。（注2）	注3	○	○		
光量比制御モードで撮影できる。（注4）		○			

TYPE A：内蔵ストロボ

TYPE B：AF330FTZ、AF500FTZ（注5）

TYPE C：AF400FTZ、AF240FT

TYPE D：AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C、AF200SA

TYPE E：AF200S、AF160、AF140

注1：AF200SAは不可。

注2：1/125秒以下になります。

注3：タイプBまたはCストロボと組み合わせて後幕シンクロ可能。

注4：1/60秒以下になります。

注5：マルチストロボ、スレーブ機能が働きます。

その他のストロボを使用した場合

* 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

* TYPE D（AF200SAを除く）のストロボで、M S（マニュアルシンクロ）、M（マニュアル）を使うときやTYPE Eのストロボを使うときは、ストロボの計算盤で求めた絞りに合わせて撮影してください。ハイパープログラムおよびプログラム（電源スイッチがグリーンポジション■の場合のみ）自動露出では、絞りが変化してしまいますので使えません。

AF500FTZ、AF330FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。(76ページ参照)
- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。(F・FAレンズのみ)
- スレーブ機能(コードレス)がご利用できます。(AF500FTZのみ)
- マルチ発光モードがご利用できます。(AF500FTZのみ)
- 光量比制御モードがご利用できます。(90ページ参照)
- カメラがハイバープログラム、プログラム自動露出(電源スイッチがグリーンポジション■の場合のみ)、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。

- 充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの電源が入り充電が再開されます。

AF240FT、AF400FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。(76ページ参照)
- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- カメラがハイバープログラム自動露出、プログラム自動露出(電源スイッチがグリーンポジション■の場合のみ)、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの電源が入り充電が再開されます。

90

AF200T、AF280T、AF400T

- TTLオートモードで使用すると、周りの明るさによってシャッター速度が変化します(1/250秒～1/60秒)ので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。
- 外光オート(赤・緑・黄位置)で使用すると、絞りがA位置のままでも絞りは下表のように切り替わります。充電が完了すると、シャッター速度も1/250秒～1/60秒に変化します。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F 2.8	F 4	F 4
緑	F 5.6	F 8	F 8
黄			F 11

(ISO 100の場合)

ストロボ撮影(使用上)の注意

内蔵ストロボとペンタックス専用の外付けストロボを組み合わせて使用すると、充電完了した外付けストロボの機能が優先されます。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターを切ってください。

光量比制御シンクロ撮影

AF330FTZまたはAF500FTZとカメラの内蔵ストロボを組み合わせることで、二つのストロボの光量の違いを利用して増灯撮影(光量比制御シンクロ撮影)ができます。光量の比率は、内蔵ストロボが1に対して外付けストロボは2になります。

1. AF330FTZ、AF500FTZのシンクロモードを光量比制御モードにします。
2. 両方のストロボの充電完了を確認してから撮影してください。

* AF330FTZ、AF500FTZをカメラから離してご使用になると、光量比制御の効果が大きくなります。この場合には、別売りアクセサリーのホットシューアダプターF(AF330FTZでは2個)と延長コードF5Pをご利用ください。なお、ホットシュークリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となるので、使用しないでください。

* 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限が1/60秒になる他は先幕シンクロと同様になります。

Z-5Pには、各種専用アクセサリーが用意されています。詳しくは、サービス窓口にお問い合わせください。

●ケーブルスイッチF

Z-1、Z-1P、Z-5、Z-5P、Z-20P、Z-50P、SF-XN、SF7等に使えるレリーズコード。手ぶれ防止やバルブ撮影に使えます。

●マグニファイヤーFB

ファインダー中央部を拡大して見るアクセサリー。

●オートストロボAF500FTZ

ガイドナンバー50のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。スレーブ機能、マルチ発光、光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

●オートストロボAF330FTZ

ガイドナンバー33のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

●ホットシューダプターF、延長コードF5P

AF240FT・AF330FTZ・AF400FTZ・AF500FTZをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。

●AFアダプター1.7×

F2.8より明るいKA・Kマウントレンズでオートフォーカス撮影するためのアダプター。

●マクロストロボAF140C

ガイドナンバー1~4の接写用ストロボ。

●グリップストラップFDP

カメラのホールディングを確実にするグリップ。

●レフコンバーターA

ファインダーを見る角度を90度間隔に変えることができるアクセサリー。倍率は1倍と2倍の切り替え式。

●フィルター

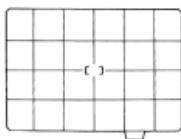
スカイライト・曇天用・UV・Y2・O2・R2・円偏光があります。フィルター径は49mm・52mm・58mm・67mm・77mmの5種類です。

●フォーカシングスクリーン

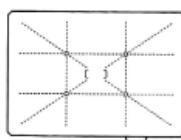
FF-60(AFフレームマット)
一般撮影用



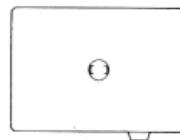
FG-60(方眼マット)
構図設定用(6mm間隔の方眼付)



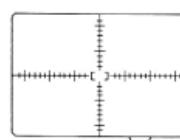
FK-60(黄金分割マット)
構図設定用(黄金分割点・フレーミングライン付)



FS-60(センタースpot)
スポット測光用フレーム付

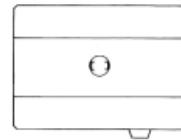


FI-60(スケールマット)
フィルム面上の像サイズ設定用
(1mm目盛のスケール付)

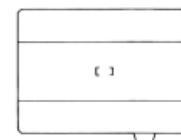


FM-60(パノラマspot)
マット)

パノラマ視野枠、スポット測光
フレーム付



FP-60(パノラママット)
パノラマ視野枠付



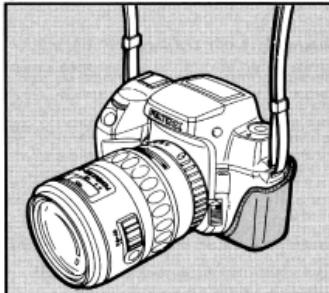
アクセサリーの注意

- 「オートベローズA」はダブルレリーズが使用できません。また、縦位置撮影のときは、カメラのグリップ側を上にしてください。
- 「PENTAX-F ★300mm F 4.5 E D (IF)」レンズの三脚座を使用してカメラを縦位置にするとき、カメラのグリップ側を下にするとレンズの三脚取り付け座がカメラに当たることがありますので、縦位置にするときにはグリップ側を上にしてください。
- 「645レンズ用アダプターK」をボディーに着脱する際、アダプターの固定ネジの位置によってはボディーに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、固定ネジの位置を変えてから行ってください。
- レフレックス1000mm F 11や2000mm F 13.5レンズをボディーに着脱する際、レンズの縦横変換ロックネジの位置によってはボディーに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、ロックネジの位置を変えてから行ってください。
- 微動装置Ⅲ型やコピースタンドのカメラ取り付け台には、水平出し用の突起部がありますが、Z-5Pでは形状が合わず直接当てるボディーに傷が付くことがありますので使用しないでください。

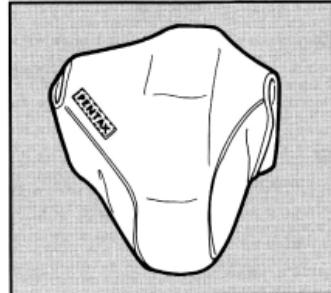
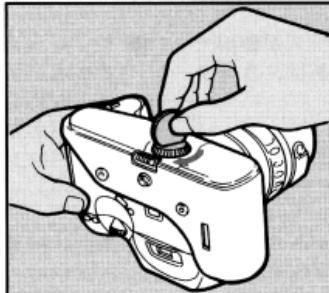
94

(16) ソフトケースFDP

1



2



ソフトケース(別売)は、バックケース(底ぶた)とフロントケース(前ぶた)からできています。

1. フロントケースを開いて、カメラをバックケースに入れます。
2. ケース下部の取り付けネジを、コインなどを使用して締め付けて固定します。

* フロントケースは、Z-1およびZ-1P用と共にFDS、FDMあるいはFDLを使用します。

* バックケースFDPは、ソフトケースのS、M、Lに共通です。

ソフトケースには、S、M、Lの3種類があります。

ケース	適合するF、FAレンズ
S	50mm/F 1.4、F 1.7、ズーム35~70mmなど
M	ズーム28~80mm、ズーム35~105mm、ズーム35~80mmなど
L	マクロ100mm、ズーム28~105mm、ズーム70~200mm、ズーム28~70mm、Fズーム80~200mmなど



高速シャッター



低速シャッター

写したい物(被写体)の明るさによって、適正露出を決めるることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、被写体が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長いので、もし、このとき被写体が動いていれば、当然被写体がぶれてしまします。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある被写体でも動きを止めて写すことができます。また、被写体が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。また、川や滝、波などを低速シャッター速度で写すと動感のある写真になります。



小絞り側



開放絞り側

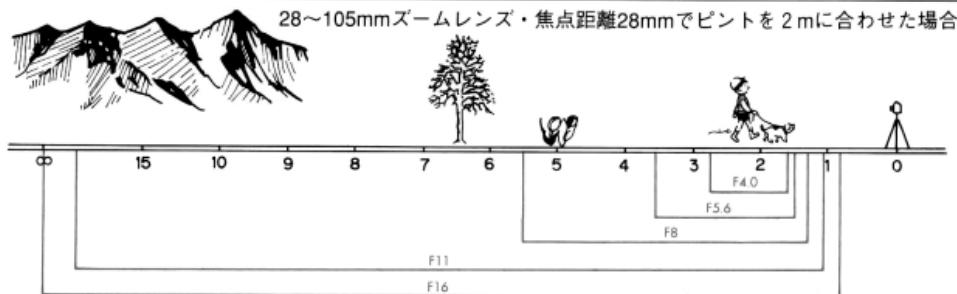
絞りの効果

絞りは、レンズを光が通るときの光束(光の太さ)を大きくしたり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のピントのずれが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲(被写界深度)が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広くなります。

例えば、風景の中で人物を撮影するときに、絞りを開いて撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のピントがずれるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。

逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントが合わせることができます。



被写体のある部分にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。

被写界深度(ピントの合う範囲)は、図のように絞りを絞り込むほど深くなりますが、この他にも広角レンズほど、また、被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。

ピントの合う範囲

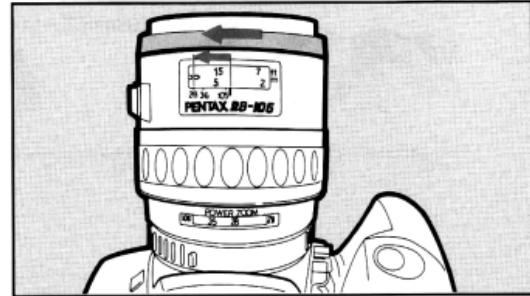
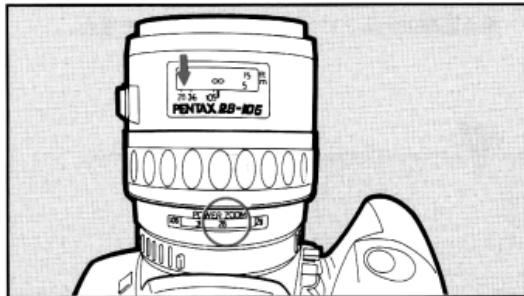
絞りを変えることによってピントの合う範囲(奥行)が変わります。

ズームレンズの被写界深度目盛りは機構上入っていません。

プレビューボタンについて

被写界深度は、絞りがA位置以外になっていればプレビューボタンを押すことでのファインダー内で確認できます。プレビューボタンを押すとセットした絞り値まで絞りが絞られます。なお、プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られませんのでご注意ください。

(19) 赤外線指標について



赤外線フィルムと「R 2」や「O 2」フィルターを使用して赤外線写真を撮影するときは、一般撮影(可視光線)とピント位置が異なってくるため、ピントの補正が必要になります。オートフォーカスでは赤外線写真のピント補正ができません。

* 赤外線写真を撮影するときの露出は、フィルムの説明書を参考にしてください。自動露出では適正露出が得られませんから、マニュアル露出で撮影します。

補正方法

一度普通にピント合わせをしてから、フォーカスマードレバーを【MANUAL】にし、距離リングを赤外線指標の分だけ左に回して補正します。

図のように、焦点距離目盛りが28のときは、距離目盛りを28の赤外線指標(赤線)までずらします。

N その他について

* カメラ用の電池はリチウムの [2CR5]、データパック用にはリチウムのコイン型電池 [CR2025] を使用します。

* 電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液もれ・発熱・破損の原因となります。電池の+/-を間違えないようご注意ください。

* 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。治療方法についてのお問い合わせ先。

筑波中毒110番：0298(52)9999 24時間体制

大阪中毒110番：06(451)9999 24時間体制

* 電池をショートさせたり、分解や充電をしたり、火の中に入れると破裂・発火の恐れがありますので絶対にしないでください。

* 海外旅行や寒冷地での撮影や写真をたくさん撮る予定のあるときなどは、予備電池を用意しておくと安心です。

* 低温では、一時的に電池の性能が低下して容量(能力)不足になることがありますので、できるだけ新品の電池を使うか、もう一つの電池を用意して交互に保温しながらお使いください。

* カメラバックなどに入れるとき、シャッターボタンが押されると電池が消耗します。電源スイッチを切っておくと安全です。

* 内蔵ストロボを連続して使うと、カメラ用の電池が多少温くなる場合がありますが、これは電池の特性で異常ではありません。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

一般撮影	約80本
ストロボ撮影(使用率50%)	約25本
ストロボ撮影(使用率100%)	約14本
バルブ露出時間	約6時間

新品のリチウム電池 [2CR5] で、当社試験条件による。(24枚撮りフィルム、常温)

* 撮影可能フィルム本数は、使用条件によって変わりますのでご注意ください。

100

2) 取り扱い上の注意

カメラは精密機械です。取り扱いには充分ご注意ください。

保管上の注意

* 高温多湿の所へ保管したり、長時間放置することは避けてください。特に車の中は高温になることがありますのでご注意ください。

* カメラは、防虫剤入りのタンスや薬品を扱う実験室を避けてください。また、カビ防止のためケースから出して風通しの良い所に保管してください。

お手入れ上の注意

* レンズやファインダー窓のホコリはプロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。

* 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。

* ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入ると、故障の原因になりますからご注意ください。保証期間中でも有料修理になる場合があります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。

* シャッター幕やミラーには、手を触れないでください。

* カメラ内部には、高電圧部があります。危険ですから決して分解しないでください。

* 一般に、電気系のトラブルは接点部の汚れやゴミが原因になる場合が多いものです。もし、電気系の不具合と思われる現象が出たときは、電池の接点や各部の接点に手油などの汚れ、塩分や特殊ガスなどによる腐食、あるいはゴミなどが付いていないかチェックしてみてください。

撮影時の注意

* 落としたり、固いものにぶつけないようにしてください。もしも強いショックや圧力を与えた場合は点検を受けてください。

* 寒い外から急に暖かい部屋へ持ち込むと(または逆の場合も)、カメラの内外に水滴を生じます。このような環境では、カメラをバッグやビニール袋に入れて、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなつてから、取り出してください。

* サービスサイズのカラープリントでは画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を取っておくと安心です。

* マクロレンズや望遠レンズを使用したときは、ファインダーの上部がミラー切れによって暗くなることがあります、撮影した写真には影響ありません。

その他の注意事項

- * カメラの使用温度範囲は50°C~-10°Cです。
- * 水没品は修理不可能の場合が多くなります。当社のサービス窓口にご相談ください。
- * 高性能を保つため、1~2年ごとに定期点検をお勧めします。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には、点検や試し撮りをされるようにしてください。

L C D (液晶)用バックアップ回路について
撮影途中のフィルムがカメラに入っているとき、電池交換のために電池を抜いても、撮影枚数とフィルム感度はカメラに記憶されています。

L C D (液晶)表示について

- * 約60°Cの高温では液晶表示が黒くなることがあります、常温に戻れば正常になります。
- * 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなったり、消えることがあります、これは液晶の性質によるもので、常温に戻れば正常になります。

102

3) こんなときは?

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください

症 状	原 因	処 置	参照ページ
シャッターが切れない	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れてください。	15ページ
	バッテリー警告  が出ている。	電池を交換してください。	10ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	10ページ
表示パネルに表示が出ない。	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れてください。	15ページ
	電池が入っていない。	電池を入れてください。	10ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	10ページ
	電池が完全に消耗している。	電池を交換してください。	10ページ
ピントが合わない。	ピントを合わせた物(被写体)にAFフレーム  が合っていない。	被写体をAFフレーム  に入れて撮影してください。	29ページ
	被写体に近づきすぎている。	被写体から離れてください。	29ページ
	フォーカスモードレバーが MANUAL になっている。	フォーカスモードレバーを SINGLE か SERVO にしてください。	28ページ
	オートフォーカスの苦手な被写体。	フォーカスロックを使うか、マット部分でのピント合わせをしてください。	31ページ 37ページ
	撮影する距離が近すぎたり、オートフォーカスの苦手な被写体などのためピント合わせができない。	フォーカスロックを使うか、マット部分でのピント合わせをご利用ください。	31ページ 37ページ
ファインダー内の  が点滅する。	電池が消耗している。	電池を交換してください。	10ページ
	フォーカスモードレバーが SERVO でシャッターボタンを押している。	シャッターボタンから指を離してください。	77ページ
フォーカスロックができない。	フォーカスモードレバーが SERVO になっている。	フォーカスモードレバーを SINGLE にする。	28ページ
1コマ撮影以外のドライブモードが使えない。	電源スイッチがグリーンポジション  になっている。	電源スイッチを ON にする。	15ページ
オートブラケッティングができない。	電源スイッチがグリーンポジション  になっている。	電源スイッチを ON にする。	15ページ
ハイバープログラム自動露出にならない	電源スイッチがグリーンポジション  になっている。	電源スイッチを ON にする。	15ページ

症 状	原 因	処 置	参照ページ
ハイバーマニュアルにならない。	電源スイッチがグリーンポジション [■] になっている。	電源スイッチを [ON] にする。	15ページ
露出補正がセットできない。	電源スイッチがグリーンポジション [■] になっている。	電源スイッチを [ON] にする。	15ページ
ズームクリップモードにセットできない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して [POWER ZOOM] にする。	70ページ
	レンズのオートズームスイッチが [P] になっている。	レンズのオートズームスイッチを [A] にする。	70ページ
パワーズームが動かない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して [POWER ZOOM] にする。	25ページ
露光間ズームにセットできない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して [POWER ZOOM] にする。	70ページ
露光間ズームが作動しない。	焦点距離が最もテレ側(数字の大きい方)になっている。	焦点距離をワイド側(数字の小さい方)にする。	74ページ
ズーミングするとピント合わせをしてしまう。	パワーズームでズーミングすると自動的にピント合わせをします。		25ページ

静電気などの影響により、希にカメラが正しい作動をしなくなることがあります。このような場合には、一旦電池を入れ直してください。また、ミラーが上がったままになった場合は、電池を入れ直してから電源スイッチをONにし、シャッターボタンを押し込んだまま電源スイッチをOFFにする、ミラーが下がります。これらを行ない、カメラが正常に作動すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

4) 主な仕様

型式	TTLストロボ内蔵 TTL AE・AF 35mm一眼レフカメラ
画面サイズ	24×36mm(パノラマ撮影時は13×36mm)
使用フィルム	35mmフィルム (J135バトローネ入り) 35mmDXフィルム=ISO25~5000 DXでないフィルムはISO6~6400
露出モード	ハイバープログラム自動露出、プログラム自動露出、絞り優先自動露出、ハイバーマニュアル露出、バルブ
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター オートシャッター=1/8000秒~30秒(無段階)、マニュアルシャッター=1/8000秒~30秒、バルブ、電磁レリーズ、電源スイッチ切りでシャッターロック
レンズマウント	ペンタクススペシャルマウント(AFカプラ、レンズ情報接点、パワーズーム用電源ピン付きKマウント)
使用レンズ	KAF2, KAFマウントレンズ KA, Kマウントレンズ (AFアダプター使用でAF可能)
オートフォーカス機構	TTL位相差検出式、オートフォーカス作動輝度範囲EV-1~18(ISO100)(F1.4レンズ付き)、フォーカスロック可能、フォーカスマード=[SINGLE], [SERVO](動作予測可)、[MANUAL]
パワーズーム	FAズームレンズとの組み合わせにより、3速パワーズーム・ズームクリップ・露光間ズームが使用可能
ファインダー	ペンタプリズムファインダー、交換式ナチュラルプリントフォーカシングスクリーン、視野率92%、倍率0.8倍(50mm・∞)、視度調節式-2.5~+1.5D、パノラマ視野枠付、スポット測光エリア付き
ファインダー内表示	フォーカス表示(FI=フォーカスインジケーション) [■] 合焦表示(緑ランプ表示)前ビン・後ビンおよび合焦不能表示(緑ランプ点滅)、シャッター速度=8000~30秒表示、絞り=F1.2~90表示、[■] 点灯=外付けストロボ充電完了表示、[■] 点灯=内蔵ストロボ充電完了表示 [■] 点滅=ストロボお勧めまたは不適切レンズ警告表示、バーグラフ=露出補正值、オートブラケットティング補正值、マニュアル露出時のオーバー・アンダー表示、[■]=露出補正表示、[■]=メモリーロック表示、[■]=8分割測光表示、[■]=中央重点測光表示、[■]=スポット測光表示、[■]=パノラマシグナル
LCDパネル表示	[Hyp]=ハイバープログラム自動露出表示、[P]=プログラム自動露出表示、[A]=絞り優先自動露出表示、[HyM]=ハイバーマニュアル露出表示、[bu]=バルブ表示、[■]=ズームクリップ表示、[■]=露光間ズーム表示、シャッター速度=8000~30秒表示、絞りF値=1.2~90、フィルム感度=6~6400、ISO表示、バルブ露出時間=1秒~59秒(1~59)・1分~59分(1~59の点滅)・1時間~9時間(1h~9hの点滅)、ブレカッティング・露出補正の補正值=-4~-+4、多重露出回数=2~9、バーグラフ=露出補正值、オートブラケットティング補正值、マニュアル露出時のオーバー・アンダー表示、[■]=露出補正表示、[■]=バトローネ・フィルム走行マーク、[■]=電池消耗表示、フィルムカウンター=0~99、[■]=赤目軽減表示、[■]=内蔵ストロボ充電完了表示、[■]=速い点滅=ストロボお勧め表示、[■]=速い点滅=不適切レンズ警告表示、[■]=8分割測光表示、[■]=中央重点測光表示、[■]=スポット測光表示、[■]=ブザー表示、[■]=1コマ撮影表示、[■]=連続撮影表示、[■]=セルフタイマー表示、[■]=オートブラケットティング表示、[■]=Tvダイレクトダイヤル表示、[■]=Avダイレクトダイヤル表示、[■]=T v表示、[■]=Av表示、[■]=多重露出表示

セルフタイマー	電子制御式、始動はシャッターボタン、作動時間12秒(赤ランプ点滅、音、減算表示)、作動後解除可能
ミラー	クイックリターンミラー、オートフォーカス用第2ミラー付
フィルム入れ	オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ、裏ぶたにフィルム情報窓付
プレビューボタン	絞りA位置以外で可能
巻き上げ・巻き戻し	内蔵モーターによる自動巻き上げ・巻き戻し式、1コマ撮影・連続撮影(約4コマ/秒)、フィルム終了時自動巻き戻し、フィルム走行・巻き戻し完了をLCD表示
露出計・測光範囲	TTL開放8分割測光、測光範囲50mm F1.4 ISO100 EV0~20、中央重点測光、スポット測光可
露出補正	±4EV(0.5EVごと設定可能) -3~+3EV・0.5EVステップバーグラフ表示有
オートラケッティング	適正・アンダー・オーバーの3コマ連続段階露出が可能(±0.5EV~±4EVの範囲)露出補正併用可
メモリーロック	ボタン式(タイマー式10秒)シャッターボタン半押しで継続
ストロボ	直列制御TTLストロボ内蔵、ガイドナンバー14(ISO100/m)28mmレンズをカバー、回転速度1/250秒以下、日中シンクロ、低速シンクロ、赤目軽減機能、光量比制御可能 ISO連動範囲=25~800、AFスポットビームあり
シンクロ	ホットシュー(X接点専用ストロボ接点付き)専用ストロボ連動 ISO連動範囲=25~800
電源	6Vリチウムパック電池[CR25]1個
電池消耗警告	バッテリーマーク[■]点灯(点滅時シャッターロック、ファインダー内表示は消灯)
裏ぶた	交換可能
大きさ・重さ	152.0mm(幅)×95.5mm(高)×74.0mm(厚) 650g(ボディのみ電池別)
付属品	ホットシューカバーFD、レリーズソケットキヤップFD、カメラストラップFD、アイカップFD、ファインダーキヤップ
クォーツデータ仕様	
データ機構	クォーツ制御、液晶表示式、デジタル時計、オートカレンダー(西暦2019年まで、閏年は自動修正)
データの写し込み方法	7セグメント6桁LCD、フィルム背面より写し込み
データ表示	データ表示窓にLCD表示、表示写し込み時[■]が2~3秒間点滅
データの種類	①年・月・日、②日・時・分、③[---] (データ写し込み無し)、④月・日・年、⑤日・月・年 年=87~19(1987~2019年)、月=1~12、日=1~31、時=0~23、分=00~59
使用可能フィルム感度	ISO25~1600(感度自動セット)
データ電源	C R2025(リチウム電池)
発光回数	約5000回

106

お問い合わせは次の各サービス窓口へ

■営業時間：・ペンタックスフォーラム(新宿)

午前10時30分～午後6時30分
(原則として年末年始を除き年中無休)

・ペンタックスフォーラム・大阪

午前10時～午後6時(日・祝日休業)

・各サービスセンター
ペンタックスファミリーペンタックスフォーラム
(ショールーム・写真展・修理受付)

☎03(3348)2941㈹

〒163-04

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号
新宿三井ビル1階(私書箱240号)



東京サービスセンター

☎03(3571)5621㈹

〒104

東京都中央区銀座西8丁目10番地
(土橋交差点交番並び)



札幌サービスセンター

☎011(241)8742㈹

〒060

札幌市中央区
大通西8丁目1番地1号
朝日生命札幌大通ビル4階



仙台サービスセンター

☎022(261)5681㈹

〒980

仙台市青葉区中央2丁目2番10号
仙都会館4階



新潟サービスセンター

☎025(224)8391㈹

〒951

新潟市本町通七番町1153番地
新潟本町通ビル



横浜サービスセンター

☎045(681)8771㈹

〒231

横浜市中区不老町1丁目6番9号
横浜エクセルントVビル3階



静岡サービスセンター

☎054(255)6308㈹

〒420

静岡市伝馬町24番2号
住友建設ビル5階

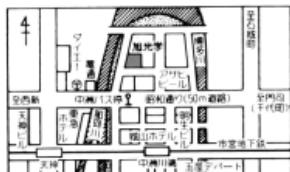


名古屋サービスセンター

☎ 052(962)5331㈹

〒461

名古屋市東区泉1丁目19番8号



福岡サービスセンター

☎ 092(281)6868㈹

〒810

福岡市博多区中洲中島町3番8号

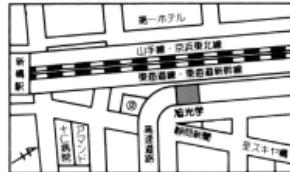


金沢サービスセンター

☎ 0762(22)0501㈹

〒920

金沢市尾張町2丁目8番23号
太陽生命ビル6階

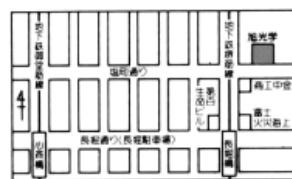


お客様相談室

☎ 03(3572)6479

〒104

東京都中央区銀座西8丁目10番地
(土橋交差点北交番並び)



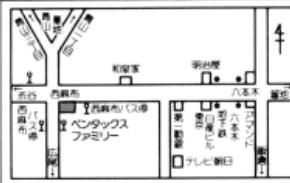
大阪サービスセンター

☎ 06(271)7996㈹ (修理受付)

〒542

大阪市中央区南船場1丁目17番9号
ペンタックスフォーラム・大阪
(ショールーム・写真展)

☎ 06(271)3960



ペンタックスファミリー(写真クラブ)

☎ 03(3401)2187

〒106

東京都港区西麻布3丁目24番20号
交通安全教育センター3階



広島サービスセンター

☎ 082(248)4321㈹

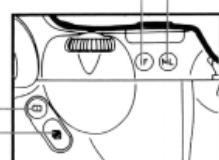
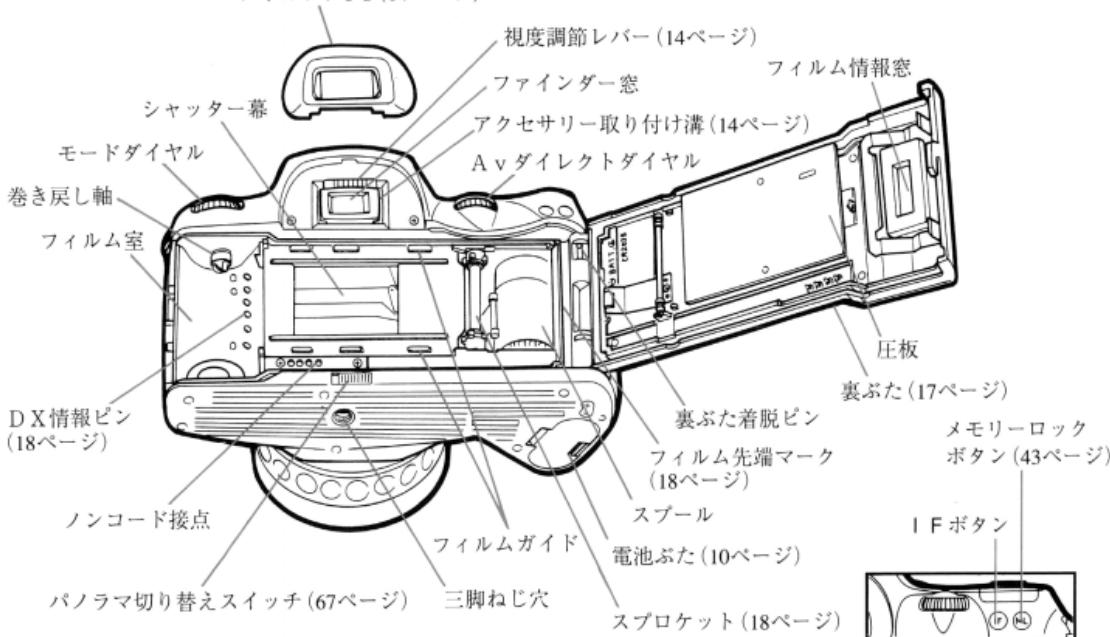
〒730

広島市中区大手町3丁目7番2号
大東京火災広島ビル8階

ペンタックスファミリーのご案内
ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。
お申し込み・お問い合わせは上記ペンタックスファミリー事務局まで。

各部の名称②

アイカップFD(14ページ)



- 旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリーが展示され、手にとってご覧になれます。また、種々のご相談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りください。
 - 他社製品（レンズ、アクセサリー等）との組み合わせ使用に起因する故障については有料となります。
1. 修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。郵送の場合は、カメラの化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかりと包装し、書留小包便でお送りください。なお、不良見本のフィルムやプリント、また、故障内容は正確にメモして添付していただけると原因分析に役立ちます。
 2. 保証期間中（ご購入後1年間）は保証書（販売店印、および購入年月日が記入されているもの）をご提示ください。保証書がないと、保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用は、お客様にご負担願います。
 3. 保証期間以後の修理は原則として有料です。なお運賃諸掛りはお客様にご負担願います。

4. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後、10年間を目安に保有しております。したがって本期間に中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間以後であっても、修理可能の場合もありますから、当社の各サービス窓口にお問い合わせください。
5. 外国旅行をされる場合、各サービス窓口ではお手持ちの保証書と交換に、国際保証書を発行いたします。（保証期間中のみ有効）なお、特定の旅行先でのサービス窓口の住所については、お問い合わせください。

下表の5つの項目は、サービス窓口での内容の変更が可能です。（有料）

	初期状態	変更後	参照ページ
露出補正ステップ	0.5EV	0.3EV	56
H/P時の自動シフト	する	しない	47
メモリーロック時のフォーカスロック	しない	する	43
巻き戻し時のリーダー	巻き込む	少し残す	20
フィルムの自動巻き戻し	する	しない	20



旭光学工業株式会社

〒174 東京都板橋区前野町2丁目36番9号

ペンタックス販売株式会社

〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号